

### 3 野村・グルー会談

1385

昭和14年10月27日

在米国堀内大使より  
野村外務大臣宛(電報)

新通商条約締結は日本の出方次第に懸かり在  
華米國權益の尊重なくば無条約も辞せずとの  
米國要路の意向について

ワシントン 10月27日後発

本 省 10月28日前着

第一三一一號

二十七日 Wilfred Fleischer ハ本使ニ對シ最近瑞典ヨリ米  
國ニ歸來シ數回實業家等ノ會合ニ出席シ講演ヲ爲シタルカ  
其ノ際彼等ハ概シテ歐洲ノ情勢ニ注意ヲ奪ハレ極東問題ニ  
關シテハ殆ト無關心ナリシカ華府ニ來リ大統領國務長官  
「ホーンベック」極東部長等ニ面會シ對日政策ヲ質問スル  
ニ及ヒ何レモ本年六月ニ比シ態度硬化シ(see)且其ノ言フ  
所全ク一致シ居ルコトハ意外ニ感シタリ即チ條約問題ノ成  
行ハ一途ニ日本側ノ出方如何ニ懸リ居リ在支米國權益ノ現

狀改善ヲ見サル限り無條約トスルモ已ムヲ得ス議會ノ空氣  
ニ依リテハ「エンバーゴ」ニ迄進ムコトアルヘシト異口  
同音ニ語リ居リ「グルー」ノ演說モ國務省ニテ起草セラレ  
タルコト疑ナシト自分ハ感シタリ唯大統領ト會談ノ際ノ印  
象ニテハ行政部自ラ「エンバーゴ」促進等此ノ上積極的  
措置ヲ執ル考ナキ様思ハレタリ

尙國務長官ハ六月會議ノ際ニハ歐洲ノ危機ヲ說キ開戦ノ場  
合ニハ結局米國モ引込マルルヲ免レサル如キ口吻ナリシカ  
今回ハ米政府ハ飽迄モ中立ヲ維持セサルヘカラサルコトヲ  
高調シ居タル趣內話セリ

~~~~~

1386

昭和14年10月28日

吉沢亜米利加局長作成の「日米關係打開方策案」

付記一 昭和十四年八月八日、外務省対米政策審議委

員会幹事会決定

「米國ノ日米通商條約廢棄通告ニ對スル對策方針案」

二 昭和十四年十月二十日、海軍省作成

「對米外交施策案」

日米關係打開方策案

(吉澤亞米利加局長案、大臣へ提出済)

昭和四、一〇、二六

一、目下行詰り狀態ニ在リテ之ヲ放置スルニ於テ三ヶ月後ニハ通商條約廢棄通告ノ效力發生ニ依リ一層ノ惡化ヲ豫想セザルベカラザル日米關係ハ恰モ野村大臣ノ新任後間モナク賜暇ノ期限ヲ終ヘテ「グルー」大使ノ歸任シタル此ノ機會ヲ捉ヘテ之ヲ打開スル爲メニ絶大ノ努力ヲ拂ハザルベカラズ

二、是ガ方法トシテハ大臣ト大使トノ間ニ數次ニ亘ル會談ヲ行ヒ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行フコトヲ豫測スルモノナル處此ノ如キ會談ノ目標トスル所ハ

(イ)米國ヲシテ東亞新秩序建設ノ眞諦ヲ領得セシムルコト  
及

(ロ)在支米國權益ニ關スル懸案ハ其ノ由テ來ル所ヲ充分説

明シ出來得ル限り解決スルモノナルコトヲ了解セシムルコト而シテ

(ハ)差迫レル通商條約問題ニ付テハ無條約狀態ニ入ルコトヲ防止スルコト

ニシテ依テ以テ米國ヲシテ當面支那事變ノ收拾及其後ノ建設事業ニ協力セシムル事態ニ導カザルベカラズ

三、右(イ)ニ付テハ既ニ有田大臣時代種々ノ機會ニ於テ之カ説明ヲ爲シタルモ抽象的ニ過キテ米國側ヲシテ納得セシムルニ至ラス仍テ本會談ニ於テハ出來得ル限り具体的ニ之ヲ爲スヲ要ス抑米國側カ最モ重視スル門戶開放機會均等ノ原則ハ東亞新秩序ノ建設ニ依リテ必然的ニ制約ヲ受クルコトトナルヘキ所以ハ既ニ説明シタル所ナルヲ以テ今回ハ更ニ進ンテ如何ナル經濟活動カ如何ナル程度ニ於テ制約ヲ受クヘキカヲ個々ノ事例ニ付キテ明確然タル説明ヲ與フルコトヲ要ス是カ爲陸海軍興亞院ト最モ密接ナル連絡ヲ保持シ充分ナル了解ヲ遂ケサル限り從來屢經驗シタル如ク中央ニ於テ話合ヲ遂ケタル事項カ出先ニ徹底セス爲ニ説明カ空手形ノ發行ニ終ルコトナキ様萬全ノ注意ヲ要ス

四、新秩序ニ關スル話合ノ際之カ核心ヲ成スベキ中央政府權ニ付キ論議ヲ交フルニ至ルベキコト必然ナルガ右ニ關シテハ目下進行中ナル中央政府權樹立工作ト相照應シテ中央政府權ノ本体、日本トノ關係、第三國トノ關係ニ付キ出來得ル限り詳細ニ内報シ殊ニ最後ノ點ニ付テハ門戸開放機會均等ノ原則ニ付テハ第三國ノ危惧スルガ如キモノニ非ザルコトヲ了解セシムルヲ要ス但シ新秩序論ニ對シテ先方カ九國條約論ヲ以テ對抗シ來ルニ於テハ會談ハ直ニ行詰リニ陥ルベキニ付具體的個々ノ事例ニ付キ論議シ概念的原則論ニ墮セザル様留意スルヲ要ス

五、以上ハ事變處理及其後ニ於ケル日支關係ニ關スル帝國將來ノ對策ニ關スル説明ナルカ事變勃發以來今日迄ノ軍事行動ノ結果トシテ發生シタル米國權益ニ關スル懸案ハ兩國關係行詰リノ重要原因ナルヲ以テ之カ解決ヲ圖ラザルベカラザル處之ニ關聯シテ留意スベキ點左ノ如シ

(イ) 本件ニ關スル米國側從來ノ主張(「グルー」大使ノ日米協會演說亦然リ)ヲ見ルニ動モスレバ大規模ナル軍事行動ノ行ハレツツアルヲ無視シ居ルノ嫌アリ日英會談ノ結果英國側カ此ノ點ヲ確認シ居ル今日米國側ニ於テ

明確ナル認識ヲ持ツコトノ必要ヲ力説ス

(ロ) 懸案ハ之ヲ文化的(人道的)ノ性質ヲ有スルモノト經濟的ノモノトニ大別シ得キ處前者ハ第三國全体トシテ見テ米國關係ノモノ大部分ヲ占ムルヲ以テ之カ解決ヲ日米關係打開ニ比較的多ク利用シ得可シ

(ハ) 從來懸案ニシテ完ク解決シ又ハ解決ノ緒ニ就キ居ルモノ少カラズ米國輿論ガ此ノ點ニ付キ全然注意ヲ拂ハザルハ我方ノ不滿トスル所ナリ(懸案解決表ハ別ニ準備ス)

六、通商條約ノ問題ハ廢棄通告ノ動機ガ支那問題ニ在ルコト明ナルニ鑑ミ敍上新秩序及懸案解決ノ問題ニシテ米國側ヲ納得セシメ得ルニ於テハ刃ヲ迎ヘズシテ解クノ理ナリト云ヒ得ベキモ但シ現行條約ハ既ニ締結以來三十年ニ垂トシ我方ヨリ見テモ改訂ヲ希望スベキ點モ尠カラズ來年一月二十五日迄ニ必要ノ改訂ヲ加ヘ又ハ新條約ヲ成立セシムルコトハ到底不可能ナリト見サルヘカラス仍テ一應新條約案ヲ提議スベキモ結局出來得ルタケ我方要望ヲ採リ入レタル暫定取極ノ成立ヲ以テ満足スルノ外ナカルヘシ

七、通商條約問題ハ期限ヲ有ツ問題ナルヲ以テ之カ急速解決望マシト雖モ我方ノ肚裡ヲ見透サルルカ如キハ之ヲ爲スヘカラサル所ナルヲ以テ會談ノ當初ニ於テハ新秩序及懸案解決ノ問題ニ局限シ米國側カ我方見解説明ニ納得シ其ノ基礎ノ上ニ日米關係現狀打開ノ話合ニ入り得ルノ見達シツキタル上ニ於テ始メテ本問題ノ論議ニ移ルヘキモノトス但シ其ノ際ニ於テモ我方ヨリ口ヲ切ルコトヲ避ケ先方ヨリ話出サシムル様様ヲ向クルノ心構ヲ以テ臨ムヘキナリト思考ス

八、以上ノ如キ段階ヲ以テ暫定取極迄運フコトヲ得ルニ於テハ一應日米關係ノ行詰リ狀態ヲ脱却シ得タルモノト云ヒ得ヘキヲ以テ一方直ニ新條約ノ交渉ニ入ルト共ニ新支那建設事業ニ協力セシムルノ方策ニ進ムヘキモノトス

#### (付記一)

#### 十四、八、八、米一

米國ノ日米通商條約廢棄通告ニ對スル對策方針案

(對米政策審議委員幹事會決定)  
(實カ)

今次米國ノ對日通告ノ措置振ハ極メテ非禮且非友誼的ニシ

テ日本ヲ輕視シ居ルモノト認ム、帝國ノ對米政策ハ實ニコノ米國ノ對日輕視態度ヲ是正セシメ相互尊敬且平等ノ基礎ニ立ツ親交關係ヲ樹立スルニアリ、現下ノ事態ニ於ケル日本ノ對米外交モコノ重要ナル機會ヲ利用シ右ノ根本目的達成ノ爲ニ米國今次ノ措置ヲ反潑シ彼ヲシテ日本ノ實力トソノ東亞政策貫徹ノ強固ナル決意ニ對シ充分ノ理解ト尊重ノ念ヲ抱カシメ且米國カ極東ニ於テ意圖スル處ハ日本トノ協力ニ俟タサレハソノ結果ハソノ所期スル處ト反對トナルヘキコトヲ悟ラシムル様處置セラルヘキヲ要ス

故ニ帝國ハ今次米國ノ右ノ通告措置ニ對應シ且今後ノ支那ニ於ケル新事態ノ發展ニ着目シテ

茲ニ左ノ如キ目標ヲ樹立シ之ヲ後述ノ如キ方策ニヨリ達成方努力セサルヘカラス

#### 一、目 標

甲、米國ヲシテ帝國ノ企圖スル東亞新秩序ノ建設ニ對シ

同調的態度ヲ執ラシムルコト

乙、日米間ニ東亞新秩序建設ノ「プログラム」ニ即應セ

ル新通商條約ヲ締結スルコト

三、差當リ採用セラルヘキ具體策

甲、今次米國政府ノ廢棄措置ハ其ノ方法、時期及動機ニ於テ甚タ非禮且非友誼のナルヲ以テ右ニ對スル帝國政府ノ抗議ノ意ヲ表明シ米國ニ反省ノ機會ヲ與ヘ且帝國政府ニ於テ今後ノ日米關係再檢討ノ目的ヲ以テ在米大使ヲ召還スルコト(本件ニ付テハ外部ニ對シテハ單ニ「大使召還ハ今次米國政府ノ本條約廢棄通告ヲ機會トシテ日米關係再檢討ヲ目的トスルモノナリ」ト公表スルコトトス)

イ、大使召還ハ米國ニ反省ノ機會ヲ與ヘントスルモノナレトモ、我方トシテモ單ニ右召還ヲ以テ事足ルトナスモノニ非ルハ勿論ニシテ、コノ重大ノ機會ニ當リ同大使ヲシテ政治的及事務的報告ヲナサシメ帝國トシテ對米政策再檢討ヲ行ヒ愈々眞ニ腹ヲ据エ直シテ日米國交調整ニ乗出スヘキナリ

ロ、今次ノ米國政府ノ非友誼的措置ニ對シ我方カ徒ニ無爲又ハ讓歩的態度ヲ執ル時ハル大統領及米國民ヲシテ今次廢棄措置ノ日米關係ニ及ホセル惡影響ニ付深く反省スルノ機會ヲ與ヘス又ル政府攻撃論者ニ對シテモ積極的ノ攻撃ノ材料ヲ與ヘサルコトトナルモ

ノナリ

ハ、右大使召還ヲ以テ徒ニ米國側ヲ刺戟スルノミニシテ何等建設的ナラストナスハ當ラス、我方ニ於テ毅然タル態度ヲ示シテコソ彼ヲシテ眞面目ニ對日政策ヲ再檢討セシムルヲ得可シ。

ニ、右大使召還ハ外交斷絶ノ一步手前ニシテ米國側ノ廢棄ノ遣口ニ比シ「アンブロポーシヨナル」ニ「ドラスチック」ナリトナスハ當ラス外交機關ノ引揚トハ異リ大使ノミヲ召還スルハ近來外交上ソノ類例多キ處ニシテ國交斷絶ヲ豫想セシムル程「ドラスチック」ナルモノニ非ス現ニ米獨ノ關係ハ相互ニ大使ヲ召還シ居レリ(別紙參照)

ホ、我方ノ右召還措置ニ對抗シテ米國側ニテ更ニ對日壓迫ニ出ツルコトハ無之ト信セラル、徒ラニ無爲ニ過シ或ハ讓歩的政策ヲ執ルトキハ右召還措置ヲ執ル場合ニ比シ反テ米國ヲシテコソ上對日壓迫ヲ加ヘシムル可能性多キト共ニ積極的日米國交打開ノ「チャンス」ヲ失フ虞アリ。

乙、東京ニ於テ「ドーマン」代理大使ニ對シ本件廢棄問

題ニ關スル我方ノ意嚮トシテ右措置カ不穩當ナルコトヲ指摘スルト共ニ右措置カ東亞問題ニ關係ヲ有スルモノトセハ帝國政府ハソノ東亞政策ニ關シ他國ニヨリ「デイクテイト」セラルルモノニ非ス、米國カ日本ニ對シ如何ナル壓迫ヲ加フトモ之ヲ貫徹スヘキ不退轉ノ決意ヲ有スルモノニシテ、若シ米國今次ノ措置カ對日壓迫ヲ意圖シ居ルモノトセハソノ結果ハ全クソノ所期スル處ト反對トナルヘク、米國ノ欲スル在支權益ノ保護増進ノ如キハ一二日本ノ政策ト支那ニ於ケル現實ノ事態ヲ承認シ日本ト協力スル事ニヨリテモソノ目的ヲ達シ得ヘキコトヲ強調徹底セシム。

丙、將來帝國ノ對米政治の啓發工作ハ愈々重要ナルヘキヲ以テ在米各公館ニ於ケル現在ノ情報啓發工作ヲ強化擴充スルト共ニ日米關係ノ現狀ニ關シ積極の國內啓發工作ヲ行フコト。

丁、支那現地ニ於ケル米國人初メ第三國人ノ毆打事件等道義精神ニ反シ徒ラニ米國側ヲ刺戟スルノミニシテ我方ニ何等ノ利益ナキコトハ絶對的ニソノ發生ヲ防止スルノ方策ヲ講スルコト

戊、米國側ハ今次ノ廢止措置ニ對スル日本側ノ「リアクシヨン」ヲ探ル爲ニ次々ニ強硬執拗ナル要求ヲ爲シ來ルコト豫想ニ難カラサル處右ニ對シテハ特ニ注意ヲ以テ當リ、苟モ我方カ米國今次ノ脅威ニ屈シタルカ如キ印象ヲ與ヘサルコト

己、帝國ノ在支米國權益ノ取扱振ニ付テハ特ニ既定方針ヲ變更スル要ナシト認ムルモ唯我方カ今次ノ米國側措置ニヨリ特ニ屈シタルカ如キ印象ヲ與ヘサル様注意スル要アル事勿論ナリ

### 三、今後施策セラルヘキ工作

イ、來ルヘキ東亞新事態ノ發展ニ當リ米國ノ執ルヘキ政策ヲ豫想シ之カ對應策ヲ準備スルト共ニ九國條約ニ關スル處理方策ヲ確立スルコト。

ロ、米國今後ノ出方如何ニヨリテハ在支米國權益尊重ノ程度ヲ手加減シテ對抗シ米國ヲシテ反省セシムヘキ具體策ヲ研究スルコト

ハ、今次ノ廢棄問題ヲ將來ノ政治的交渉ニ利用スル爲ニ速ニ新支那建設ノ具體的プログラムヲ確定シ在支米國權益ノ何レカ排除セラルヘキモノニシテ何レカ將來共

其ノ活動カ許サル可キモノナルカヲ明確ニシ置クコト  
ニ、米國ノ對日壓迫ニ對應スル帝國ノ經濟的措置ヲ實行  
スルノ體勢ヲ備フルコト、例ヘハ現在日本カ米國ヨリ  
購入シ居ル棉花、石油等ヲ中南米ヨリ現實ニ購入スル  
カ如キ方策ヲ強化スルコト

ホ、東亞新秩序建設ノ「プログラム」ニ則應スル日米間  
新通商條約ノ立案審議

以上

(尙本幹事會ニハ調二、亞一、情一、通五、米一各幹事課  
長ノ外、條一、通一、通三、米二、歐二各課長及祕書官出  
席セリ)

(別紙)

一國ノ政策ニ對スル不滿ノ表明トシテ該國駐在ノ

大使ヲ召還シタル最近ノ先例

昭、一四、八、七 條約二課

一九三六年佛國「レオン・ブルム」内閣成立スルヤ駐伊佛  
國大使「ピネトン・ド・シヤムブラン」伯ハ召還セラレタ  
リ。右ハ人民戰線内閣ノ伊國ニ對スル思想上ノ敵意ヲ表明

スルモノト各方面ニ於テ解釋セラレタリ。

一九三七年伊國ハ佛國カ「エチオピア」ノ併合ヲ認メス大  
使ヲ送ラス代理大使ヲ置クノミナルヲ憤リ在佛伊國大使ヲ  
召還シタリ。

一九三八年十一月獨逸ニ於ケル猶太人問題ニ關聯シ駐獨米  
國大使「ウイルソン」報告ノ爲ト稱シ召還セラレ其ノ後國  
務長官代理「ウエルズ」ハ歸國中ノ駐獨米國大使ハ米獨關  
係ニ關スル顧問格トシテ無期限ニ華府ニ留ルヘキ旨發表シ  
右ハ「ウイルソン」大使ノ歸國カ單純ナルモノニ非スシテ  
獨逸ニ對スル或種ノ意思表示ナリトシテ一般ニ注目セラレ  
タリ

尙在獨米國大使本國歸還ニ關聯シ在米國獨逸國大使「デイ  
ークホフ」ハ報告ノ爲歸朝ヲ命セラレタリ

一九三九年三月獨逸カ「チエツコ」ニ保護領ヲ設定スルヤ  
英國政府ハ事情聽取ノ爲ト稱シテ「ヘンダーソン」駐獨大  
使ヲ召還シ獨逸國政府又駐英大使「デイルクセン」ヲ召還  
シタリ。

(付記二)

對米外交施策案

昭和四、一〇、二〇 海軍案

(欄外記入)

一、方針

速ニ支那事變ニ基因スル米國ノ反日援蔣的態度ヲ是正シ  
日米兩國ノ世界ニ於ケル特殊地位ニ對スル相互の理解尊  
重竝ニ經濟の依存性確認ヲ基調トスル友好親善關係ノ確  
立増進ヲ圖ル

二、要旨

(一)帝國ノ對支處理具體策確定セバ適當ナル方法ニ依リ之  
ヲ中外ニ宣明シ米國ヲシテ帝國ノ公正ナル態度ヲ諒解  
セシム

(二)速ニ日米間諸懸案ニ付對支根本方針ニ基キ具體的解決  
案ヲ研究決定シ以後順次懸案ノ解決ヲ圖ル

(三)一方の主觀論ニ墮スルハ避クルヲ要スト雖モ帝國存立  
上ノ死活的要求ハ堂々之ヲ主張シ又英米ノ不可分關係  
ニ鑑ミ作爲の親米疎英策ハ採ラザルモノトス

(四)理論外交ヲ避ケ努メテ具體的且卒直ニ商議ス

(五)最近ノ機會ヲ捉ヘテ日米東京會談ヲ開催シ前諸項ノ趣  
旨ノ下ニ日米國交ノ全面的調整ヲ開始ス

(六)政府ノ意向ヲ能ク了解シ且東京會談ニ有效ナル側面的

援助ヲ爲シ得ル有能ノ士ヲ新駐米大使トシテ特派ス

(七)(一)(二)(五)(六)ハ速ニ實現ヲ期スルモノトシ成ルヘク新支那

中央政權樹立時機迄ニ基本的事項ニ關シ略諒解ニ到達

セシムルモノトス

三、日米間諸懸案解決要領

(一)新日米通商航海條約ノ締結

互惠主義ニ基ク新條約ノ締結ヲ希望スルモ已ムヲ得ザ  
レバ暫定的ニシテ且互惠差別ノ明記ナキ概括のモノ  
ニテ忍ブ

(二)九ヶ國條約處理

支那新政權成立後時機ヲ見テ同政權又ハ帝國ヨリ同條  
約ノ再檢討ヲ提案スルコトトシ當分ハ事實上空文同様  
ナル本問題ニ觸レザルヲ立前トシ日米會談ノ空氣ニ依  
リ好機ヲ捉ヘテ帝國ハ支那ノミナラス亞細亞全地域ニ  
於ケル門戶開放機會均等政策ノ實現ヲ期待スルモノナ  
ルヲ說キ米ガ本條約ヲ楯ニ取り事變處理ヲ妨害セザル  
默契ヲ取リツクルニ努ム

(三)揚子江及珠江ノ開放問題



作戰上ノ要求ニ基ク所要ノ制限又ハ留保ヲ附シ開放ス  
ルモノトシ爲シ得レバ前記(一)(二)又ハ日米經濟提携幫助  
ニ利用スル如ク留意ス

(四)租界處理問題

直接租界回收等ノ根本問題ニ觸レズ間接的工作ニ依リ  
租界ノ無力化ヲ圖リ好機ヲ得ル迄租界回收ハ之ヲ延期  
ス

(五)在支英佛軍隊撤收

中立義務ニ基ク歐戰中ノ一時的措置ナルヲ知ラシメ交  
戰國軍隊撤退後ノ共同租界警備ハ日米ニテ分擔ス  
米ガ英佛ノ專管租界ノ警備ヲ引キ受クル場合ハ日米共  
同警備ヲ條件トシテ承認ス

(六)在支米權益被害賠償

明ニ我カ不注意ニ因ルモノハ適當ノ評價ニテ速ニ之ヲ  
賠償ス我責任ノ明確ナラザルモノニ對シテハ共同調査  
ヲ開始ス之カ爲要スレバ日本人宣教師等ヲシテ中介セ  
シム

(七)支那ニ於ケル米人ノ企業通商問題

(イ)一般平和企業ニ對スル協力ヲ歡迎ス

(ロ)桐油ノ買付、輸送ヲ許ス

(ハ)石油重油ノ販賣ヲ許ス

(ニ)葉煙草毛皮等ノ買付制限ヲ緩和ス

(ハ)排外運動

排外運動ハ兩刃ノ危險アルヲ以テ之ヲ禁止ス目標ヲ極  
限シ全ク地方的ノモノナリト雖モ其ノ實行方法ハ紳士  
的ナルヲ要ス

(九)米人ノ對支文化事業ニ對スル制限緩和

占據地域ニ於ケル米人ノ傳道、教育、醫療事業等ハ特  
ニ制限セズ努メテ好意的ニ取扱フモノトス

四、對米施策實施上留意スベキ事項

(一)米ノ經濟壓迫ニ對抗シ得ル爲メ資源獲得先ヲ米以外ニ  
轉換スルカ又ハ特定第三國經由入手ノ準備ヲ整フ

(二)米國外交ノ急轉性ニ鑑ミ萬一ノ場合ニ處スル戰備充實  
ヲ促進ス

(終)

(欄外記入)

十月廿三日柴中佐持參、海軍大臣閱了ノ由

昭和14年11月4日

野村外務大臣  
在本邦グルー米國大使——會談日米關係改善のためには日本側が揚子江開放  
など何らかの實際的措置を示すべき旨グルー

大使要望について

野村大臣、「グルー」米國大使會談録

昭和十四年十一月六日<sup>(四)</sup>自午前十時  
至同 十一時十五分

於大臣官邸

大臣 去ル十月十二日會見シテ以來今日迄、會談ヲ行ヒ度  
シトノ閣下ノ希望ニ副ヒ得ス御待タセシタルハ恐縮ナリ。  
閣下カ多年日米國交ノ爲努力セラレ且長年大使トシテ我  
國ニ在勤セラレ兩國親善ニ盡瘁セラレタルハ余ノ感佩ス  
ル所ニシテ、最近米國ニ於ケル事情ヲ詳ニシ更ニ兩國ノ  
爲盡サントノ熱意ヲ以テ歸任セラレタル由ナルカ、閣下  
ノ熱意ハ本大臣ニ於テモ全然同感スル所ナリ。

凡ソ國際關係ヲ改善センカ爲ニハ互ニ相手方ノ見解ト立  
場トヲ正確ニ認識スル要アリ。余ノ諒解スル所ニ依レハ  
日米兩國ハ夫々太平洋ノ西ト東ニ於テ夫々ノ區域ノ安定  
要素タリ。共ニ歐洲戰亂ノ外ニ在ツテ各々ノ地域ニ悲ム

ヘキ戰禍ノ波及スルコトヲ防止スヘク共通ノ利害關係ヲ  
有スルモノト思考ス。

今申述ヘタル通り兩國々交ノ改善ニハ兩國ノ立場ヲ認識  
スルコト必要ナルカ、米國側ノ立場ニ付テハ從來前任諸  
大臣ニ對シ文書又ハ口頭ニ依リ御申入アリ且最近ニハ日  
米協會ニ於ケル御演說ニ依リ或ル程度明ニセラレ居ルモ、  
今日ハ親シク貴大使ヨリ御話ヲ承ルコト致度、過日閣  
下ハ餘リ書類ニ頼ルコトナク非公式ニ話ヲ行ヒ度キ旨述  
ヘラレタルカ之ニハ余モ全然同意ナリ。

「グ」大使 只今閣下カ日米國交改善ノ強キ希望ヲ有セラ  
ルル趣ヲ承リ感佩ニ堪ヘス。閣下トノ協力ニ依リ兩國ノ  
爲爲シ得ル所尠カラサルヘク本使ハ樂觀ニ傾キ度キ感シ  
ヲ有ス。

國際關係改善ノ爲ニハ相互ニ相手方ノ見解ト立場トヲ諒  
解スル要アリトノ御意見ニハ同感ナリ。本使ハ此ノ夏米  
國ニ於テ屢々講演ヲ行ヒ日本ノ見解ヲ紹介シ多大ノ感興  
ヲ與ヘタル次第アル處、今日ハ米國側ノ見解ヲ開陳致度  
ク、斯クシテ兩國間ノ空氣ヲ改善シ國交ヲ築キ上クルコ  
トトシ度シ。本使ハ舊世界ノ外交官ナラサルニ依リ腹藏

ナク申上度ク特定ノ事實ヲ祕スコトハ不可ナリ。

日米兩國間ニハ根本的意見ノ相違アルモノ存スルモ、現在ノ所必要ナルハヨリ善キ空氣ヲ作ルコトナリ。現在非常ニ惡化セル空氣ヲ改善シ其ノ後初メテ國交ヲ築キ上クルコト可能ナルヘシ。

米國側ノ見解ハ從來ノ申入ニ依リ日本側ニ判明シ居ルモノト存ス。本使ハ日本側ニ於テ米國國民ニ對シ日本カ國交改善ノ希望ヲ有スルコトヲ何等カノ直接ノ證據ニ依リ示ス爲ノ措置ヲ執ラレンコト希望ニ堪ヘス。米國ノ在支權益ヲ日本ハ驅逐スルモノニアラストノ證據ヲ與ヘラレンコトヲ望ム。本使ノ考フル所ニ依レハ右措置ハ消極的ノモノト積極的ノモノトニ之ヲ分ツコトヲ得ヘシ。

一消極的ノモノトハ在支米國權益ニ對スル直接ノ損害ヲ停止セラルルコトナリ。爆撃ノ事例ハ既二一八七件ニ達シ居リ、日本政府ハ米國權益カ支那側ノ軍事的施設ニ接近シ居リタル爲被害ヲ被リタリトノ説明ヲ與ヘラレ來リタルカ、米國官憲ノ報告ニ依レハ右説明ニ反スル事例多々アリ(トテ日本軍飛行機カ繰返シ低空飛行ヲ行ヒ米國標識ヲ認識シ且附近ニ何等ノ軍事施設ナキ

ニ拘ラス米國權益タル教會、學校、住宅等ニ對シ爆撃ヲ加ヘ米國人民ノ生命身体ニ危害ヲ及ホシタル事例ヲ述ヘ、數日前ニモ雲南ニ於テ此ノ種事例再發セルコトヲ舉ク)此ノ種報道カ一旦米本國ニ傳ハル時ハ米國國民ハ日本ノ所謂軍事的必要ナルモノヲ認メス、日本カ米國人ヲ驅逐セントシ居ルモノナリト考フ。故ニ此ノ種爆撃ヲ停止セラルルコト必要ナリ。

次ハ侮辱ナリ。顔ヲ殴リ身体ヲ検査シ脅迫ヲ加フル類ニシテ、事例約三百件アリ。

次ニ商業上ノ權益ニ對スル明白ナル侵害ニシテ、何等日本ノ軍事行動行ハレ居ラサル地域ニ此ノ種侵害行爲ノ發生シ居ル點ヲ指スモノナリ、之ヲ停止セラレ度。

ニ、次ニ何等カノ積極的措置ニ依リ國交改善ノ用意アルコトヲ示サレ度キ希望ナリ。自分トシテハ具體的ニ言ヒ得サルモ、例ヘハ揚子江ノ下流地域ヲ開放スルカ如キ手段ニ依リ、前述ノ直接ノ證據ヲ與ヘラレ度。

茲ニヶ月ハ日米關係上極メテ重大ナル時期ナリ。私見ヲ交ヘス全然客觀的事實ヲ申上クル次第ナルカ、米國ノ輿論ハ政府ニ對シ輸出禁止ヲ行ハンコトヲ要望シ居レリ。

議會ハ一月早々開會ノ豫定ナルカ(是ハ訓令ニ基キ申述フル次第ニアラサルモ)議員ノ一部分ニハ政府ヲシテ輸出入禁止ヲ行ハシムヘク壓力ヲ加ヘ居ルモノアリ、此ノ壓力ヲ除去スル爲ニ上述ノ手段ヲ速ニ執ラレンコトヲ希望ス。米國ノ輿論ハ之ヲ急速ニ變轉セシムル可能性アルニ依リ、右ノ如キ手段ヲ早キニ臨ンテ執ラルルニ於テハ兩國國交ノ改善可能ナルコトヲ信スルモノナリ。

貴大臣カ冒頭ニ於テ述ヘラレタルカ如ク國交改善ノ爲ニハ御互ニ相手方ノ意思ヲ知ルコト必要ナリ。本使ハ日本ノ欲スル所ヲ或ル程度知悉セリト考フルモノナルカ、日米間ノ根本的ナル意見ノ相違ハ今暫ク之ヲ置キ、過去ニケ年間ニ於ケル兩國關係ノ一般の背景ヲ説明センカ爲ニ閣下ニ差上ケ度キ書類アリ、

一、ハ閣下ノ前任諸大臣ノ與ヘラレタル文書ヲ蒐録シタルモノニシテ、其ノ中ニハ米國權益尊重ニ關スル約束ヲ屢々明瞭ニ與ヘラレアルモ、是等ノ約束ト事實トカ相反スルコトヲ説明スル資料ナリ。非公式ノ覺書トシテ差上ケ度。

二、ハ日米協會ノ演說ニ關スルモノナリ、本使ハ之ヲ行フ

際貴大臣又ハ貴國政府ノ御迷惑トナラサル様十分注意ヲ拂ヒ、米國ニ於テ起草シタル原文ニ相當削除ヲ加ヘタル次第ナルカ、其ノ削除シタル部分(爆撃、侮辱行爲、反米宣傳、通商權益侵害等ニ關スルモノ)ヲ閣下ノ參考トシテ差上ケ度。

三、ハ事變發生以來提出シタル文書ノ目錄ニシテ三八二通ノ中ニ五六通ニ關シテハ何等返事ヲモ與ヘラレ居ラサルコトヲ了解アリ度。以上述ヘタル所ハ本使ノ見タル日米現在ノ關係ノ概貌ナルカ、兎ニ角此ノ空氣ヲ改善致シ度。文書ヲ以テ申入ルルノ已ムヲ得サル場合ハアルモ餘リ書面ヲ書クコトハ致シ度クナキ考ナリ。

大臣 詳細ナル御説明能ク了解セリ。閣下ノ國交改善ニ對スル熱誠ニ對シテハ深ク感謝スルモノナリ。但シ米國側ニモ誤解アルヘシ、例ヘハ日本カ支那ヨリ米國人ヲ凡テ追ヒ出サントシ居レリトノ印象ノ如キナリ。自分一個ノ考ニ依レハ、戰爭ノ後ノ新支那ヲ建設スル爲ニハ米國ノ援助及協力ハ不可缺ノモノナリト思考ス。

茲ニ今後此ノ種會談ヲ續行スルニ當リ常ニ貴大使カ念頭ニ置カレンコトヲ望ムニツノ點アリ

第一點ハ日本ハ現ニ支那ニ於テ有史以來ノ大軍ヲ動カシ大規模ナル軍事行動ヲ廣キ地域ニ亘リ遂行シ居ルコト之ナリ。右軍事行動ノ大目的ハ抗日支那ヲシテ親日支那ニ轉換セシメルコトニ在リ。本大臣個人ノ見解ニ依レハ日支兩國ハ善隣ノ友誼ノ裡ニ共存共榮スヘキモノナリ、支那カ第三國ノ援ヲ得テ日本ニ楯突クトキハ東洋ノ平和安定ハ到底期シ難キコトヲ信スルモノナリ。

第二ノ點ハ在支日本官憲ニ於テモ上述ノ如キ不正常且困難ナル事態ノ中ニモ米國財産保護ニ關シ如何ニ盡シツツアルカニシテ、余ノ見ル所ニ依レハ日本官憲ハ爲シ得ル限りノコトヲシ居レリ、尤モ米國官憲トシテハ從來ノ結果ニ對シ満足シ居ラサルコトト思考スルモ、日本官憲ノ眞摯ナル態度ニ付テハ具體的の説明ヲ爲ス機會アルヘク、之ニ對シ米國側ヨリ一層ノ認識ヲ與ヘラレンコトヲ望ムモノナリ。

(以下比較的自由ナル會話ニ入ル。)

大臣 日米國交問題ニ付テハ單ニ總理ノミナラス他ノ閣僚ニモ常ニ話シ居ル所ナリ。何人モ將來米國權益ヲ支那ヨリ驅逐センナド考ヘ居ラス。

「グ」大使 將來追出スト云フニアラス、米國側ハ現ニ追出サレ居ルトノ印象ヲ有ス。

大臣 日本ハ現在支那ニ於テ死活的鬭爭ヲ行ヒ居ルコト了解ヲ願ヒ度。

「グ」大使 日本カ事變後支那各地ニ於テ行ヒ居ル數多ノ企業獨占カ難題ナリ。是等ノ獨占ハ單ニ事變中ノミナラス將來モ引續キ維持セラルヘシトノ不安アリ。一例ヲ舉クレハ卵ノ買付ノ如シ。

大臣 治安維持ノ爲一時的措置トシテ價格ヲ統制スル必要モアルヘシ。

「グ」大使 昨日日本使ノ日米協會ニ於ケル演說ニ對スル太平洋協會ノ反駁文ヲ見タルカ、其ノ中ニ東亞ノ新秩序ニ言及シ、右ハ日本ト支那カ歐米ニ對シ完全ナル均等ノ地位ニ立ツコトヲ意味ス云々ト云フモ、米國權益ハ現ニ支那ニ於テ均等ノ地位スラ與ヘラレ居ラス(トテ笑フ)。

大臣 軍事的手段トシテ已ムヲ得サルモノモアリ。

「グ」大使 客年十二月三十日附第一一五三號公文ヲ御一讀願ヒ度。米國ハ法律一點張りナリト云フ非難ヲ蒙リ居ルモ、右公文ニハ必要ニ應シ條約ノ變更ヲ議スル用意

アリトノ態度ヲ明ニシ居レリ。唯一方的變更ハ之ヲ認め難シトスルモノナリ。

本日ハ會談ヲ忝ウシ感謝ニ堪ヘス。日米國交改善ノ爲ニハ茲二ヶ月中ニ何等カノ手段ヲ講セラルル様致度。根本的意見ノ相違ハ別トシ、先ツ空氣ヲ改善スルコト必要ニテ、ソレモ早ク行フコト肝要ナリ。是レ常識ナリ。

大臣 全く同感ナリ。歐洲戰爭ノ將來ニ付テハ何人モ豫測シ得サル所ナルカ、日米兩國ハ小異ヲ捨テテ大同ニ就キ相提携スヘキモノナリト考フ。

「グ」大使 貴見御尤ナリ。永キ將來ノコトヲ考フレハ日米兩國ハ益々善隣互助ノ友人タルヘキモノニシテ、本使ハ斯クアラサルヘカラサルコトヲ確信スルモノナリ。

大臣 日米兩國カ如何ナル形ニ於テ爭フコトモ洵ニ不幸ナルヘシ。

「グ」大使 先般華盛頓ニ在リタル際感シタル所ナルカ、米國一般ノ參戰反對ノ空氣ノ極メテ濃厚ナルコトニハ驚ク許リナリ。一九一七年當時トハ全く反對ナリ。

大臣 當時自分ハ海軍武官トシテ華府ニ駐在セルカ自分ハ米國トシテ何等參戰ノ理由ナシト信シタリ。米國ハ too

proud to fight ナド言ヒ居リ、自分モ其ノ通り本國ニ報告シ居リタルカ、ソレテモ米國ハ急轉シテ參戰セリ。

「グ」大使 參戰ハ「ウイルソン」大統領ノ一失敗ナリシヤモ知レス。

(以下若干ノ餘談アリタルモ「グ」大使ノ希望モアリ記錄セス。)

編注 本文書は、東京大学近代日本法政史料センター原資料

部所藏「阿部信行關係文書」より採録。

1388

昭和14年11月6日

在米國堀内大使より  
野村外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約失効までに両國關係改善を  
見ない場合は対日禁輸法案の成立疑いなしと  
の上院外交委員長の談話報道報告

ワシントン 11月6日後発

本省 11月7日後着

第一三五一號

「六日A Pニ依レハ「ピットマン」ハ明年議會ノ見透トシ

テハ通商條約失效前ニ日米關係改善ヲ見サル場合ハ議會ハ自分ノ提案ニ係ル禁輸案ヲ立法スルコト疑ナキ所ニシテ支那ニ於テ米國ヲ始メ諸外國ノ權益ヲ無視シ來レル日本ノ態度ニ鑑ミ今ヤ條約失效ニ依リ警告ヲ受クルハ極メテ當然ノ事ナリトノ意見ヲ述ヘタル趣ナリ

二、右「インタビュ」ヲ取リタルAP代表者ヨリノ間接ノ聞込ニ依レハ「ビ」ハ右報道以外ニ米國經濟カ日本ニ依存シ居ル部分アル事ハ自分モ良ク承知シ居リ且是カ非テモ對日經濟壓迫ヲ加フヘシト云フニハ非ストノ趣旨ヲモ語リタルカ「ビ」ハ四日國務省カ「グルー」大使ハ貴大臣トノ會見ニ於テ經濟制裁ヲ以テ威嚇シタル事全然ナシト否定シタル事實(往電第一三四七號)ハ之ヲ知ラサリシモノナリトノコトナリ

三、尙一般ニ議會筋ニ於テハ次期議會ノ主要問題ハ國防擴充案ヲ含ム外交問題タルヘク開會後三週間ニシテ日米通商條約失效スヘキニ付「ピットマン」禁輸案ハ最初ニ考慮セラルヘキ問題ノ一ツタルヘシト觀測セラレ居ル趣報セラル

1389

昭和14年11月15日

在米國堀内大使より  
野村外務大臣宛(電報)

日本による在華米國權益侵害の具体例を國務省係官が指摘し差別待遇に不満表明について

ワシントン 11月15日後発

本 省 11月16日後着

第一三七九號

十四日他用「ハミルトン」ニ會見ノ際森島ヨリ日米關係ニ言及シタルニ

(一)「ハ」ハ表面的事件弗々解決セラレ且其ノ後毆打事件等ノ發生ナキハ寔ニ結構ナルモ根本的問題ニ付何等ノ動キナキハ遺憾ニシテ米國ニテ最大關心ヲ有スルハ右根本的問題ニ在リト述ヘタリ依テ森島ヨリ戰鬭進行中ノ現場ト在支權益尊重ニ關スル我在支官憲ノ努力ヲ述ヘタル上根本的問題トハ何ヲ意味スルヤト質ネタル處「ハ」ハ先ツ北支ニ於ケル爲替並ニ輸出統制ヲ指摘シタルヲ以テ森島ヨリ右ハ客年有田大臣ヨリ「グルー」大使宛書翰中ニ明白ナル通り北支ノ現幣制ノ下ニ於テハ寧口右制度ノ存在ニ依リテ初メテ各國人カ平等ノ地位ニ於テ取引ヲ行ヒ得

ル譯ナリト答ヘタルニ「ハ」ハ理論ハ右ノ通りナルモ實  
際上ノ遣口ヲ見ルニ日支兩國ノ機關ハ日本人ニ對シ特別  
ノ手加減ヲ加ヘ特別ノ便宜ヲ與ヘ居ル結果實際上外國人  
カ差別待遇ヲ受ケ居ルハ蔽フヘカラサル事實ナリト述ヘ  
タリ

右ニ對シ森島ヨリ現幣制ノ改廢ノ如キハ不可能ナリト思  
考セラルル處理制度ノ下ニ貴下ノ所謂事實上ノ差別待遇  
サエ除去セラルレハ問題ナキ次第ナリヤト反問セルニ  
「ハ」ハ右ヲ肯定シ第三國人カ日本人ト平等ノ立場ニ於  
テ同様ノ取扱ヲ受ケ得レハ各國人トモ機會均等ヲ享受シ  
得ル譯ナリト答ヘタル趣ナリ

(二)次テ「ハ」ハ中南支ニ於ケル事例トシテ揚子江竝ニ珠江  
ノ閉鎖、揚子江ニ於ケル日本商船ノミノ航行、揚子江筋  
竝ニ南支各地ニ於ケル日本商人ノミノ營業ヲ擧ケタル上  
米國側ニ於テハ滿洲ニ於ケル遣口カ既ニ一部北支ニ擴大  
シタル事實ヨリ見聽テ北支ノ遣口カ中南支ニモ擴大スヘ  
キコトヲ懸念シ居ル次第ニシテ自分等トシテハ過去ニ於  
ケル日本ノ遣口ヨリ判斷シ右ノ如キ結論ニ到達セサルヲ  
得スト語レルヲ以テ森島ヨリ滿洲ト支那トノ事情異ナル

所以ヲ擧ケ其ノ無用ノ危懼疑惑ナルコトヲ説明シタルモ  
「ハ」ハ過去ノ事實ハ最モ有力ナル指針ナリトテ滿洲、  
北支ノ事例ノミヲ繰返シ納得セサリシ趣ナリ

(三)右會談ノ模様ヨリ見ルニ「ハ」ハ北支ト中南支トヲ別個  
ノ範疇ニ置き居ルカ如ク見受ケラレタルノミナラス前記  
ノ通り別ニ北支ノ現幣制、爲替竝ニ輸出入統制ノ存否乃  
至可否等ヲ問題トスルコトナク終始現存制度ノ下ニ於ケ  
ル機會均等ヲ力説セル點ヨリ見ルニ米國トシテハ北支ニ  
於ケル現制度ハ既成事實トシテ默認シ其ノ下ニ各國人ノ  
機會均等ノ實現ヲ所期シ居ルカ如ク受取ラレタル趣ナリ

(四)尙「ハ」ハ華興券竝ニ中支振興會社ニモ觸レタルヲ以テ  
森島ヨリ華興銀行ト聯銀トノ差異竝ニ中支振興ハ獨占會  
社ニ非スシテ外國ノ投資ヲ喜ンテ歡迎スル次第ナルコト  
ヲ説明シタルニ別段右以上深入リスルコトナク最後ニ閣  
下ノ「グルー」トノ會談力成ルヘク速ニ續行セラレンコ  
トヲ望ム旨附言シ右會談ノ遲延ヲ氣ニシ居ルカ如キ口吻  
ヲ漏ラセル趣ナリ

在米各領事(ホノルル)ヲ含ムヘ轉電セリ



1390

昭和14年11月18日

在米国堀内大使より  
野村外務大臣宛(電報)

極東の事態に対する米國政府の立場を國務長

官代理言明について

ワシントン 11月18日後発

本 省 11月19日前着

第一三九一號

十七日「ウエルズ」國務長官代理ハ新聞會見ニ於テ須磨情報部長カ上海ニ於テ米國政府ハ日本政府ニ對スル申入中ニ於テ米ハ極東ノ新事態ニ對シ目ヲ閉スモノニアラサルコトヲ認メタリト述ヘタリトノ通信ニ關スル質問ニ對シ極東事態ニ關スル米ノ立場ハ一九三四年四月二十九日、三八年十月六日、同十二月三十一日ノ三回ノ公文中ニ明カニシテ公式ニモ非公式ニモ之カ變更ヲ示唆セルコトナキ旨答ヘタル上右公文ノ要旨ヲ概説シタリ

右ニ關シ紐育「タイムズ」華府通信ハ「ウエルズ」ノ言明ハ「グルー」大使ノ行ヒツツアル會談ニ容喙セントスルモノニアラス唯英カ日本ト話合ヲ行ヒ支那ヨリ部分的ニ退カントノ報アル此ノ際何等其ノ立場ヲ後退セサルモノナルヲ

示シタルモノト解釋セラルルモ他面權威アル筋ノ所言ニ徴シ米カ英ニ代ツテ其ノ極東權益ヲ保護スル意圖アルモノトハ思ハレス又大統領カ「ピットマン」ノ主張ニ從ヒ日米關係カ満足ニ改善サレサル場合ハ來年一月對日經濟「エンバ―ゴ―」ヲ課スヘキ旨議會ニ德連スヘシト信スヘキ根據モノ今ノ所ナシ廢棄ヲ通告サレタル條約ニ代リ新タナル協定カ出來ルヤ否ヤハ野村「グルー」會談如何ニ依ルヘク日本カ最大限度ノ軍力ヲ發揮シ居ルニ鑑ミルモ米國ノ態度カ果シテ此ノ上對支攻撃ヲ強化スル結果トハ恐ラクナラサルヘク又日本ヲ驅ツテ蘇聯ノ手中ニ入ラシムルコトモナカルヘシ「グルー」大使ノ手腕ト肚トハ斯ル事態ノ發生スル可能性ヲ減スヘシト期待セラル日蘇ハ漁業、北樺太利權、國境紛爭停止等ニ付テハ了解ニ到達スヘキモ兩國ノ根本的要素ニ鑑ミ現在見透シ得ル如何ナル事態ノ下ニ於テモ同盟ヲ結フカ如キコトハナカルヘシト信セラルト報シタリ尙右ニ關スル紐育「ヘラルド、トリビュン」華府通信ハ華府官邊ハ日蘇カ和協ヲ目論見居ル旨ノ報道ニ鮮カラス關心ヲ拂ヒ居レルモ右ハ單ニ極東問題解決ノ爲英米ニ對シ壓力ヲ利カセシカ爲ナルヤモ知レサルコトニハ氣付キ居レリト報シタリ

昭和14年11月24日

在米国堀内大使より  
野村外務大臣宛(電報)

米國上院有力議員が日米通商關係を重視し新通

商条約締結に前向きな発言をしたとの報道報告

ワシントン 11月24日後発

本 省 11月24日夜着

## 第一四二〇號

二十一日天津問題ニ關スル又二十二日通商條約問題ニ關スル「ウエルズ」次官ノ「インタービュー」(往電第一四〇八號及第一四一九號)ニ關聯シ華府A・Pノ報スル所ニ依レハ上院外交委員會ノ立役者タル「ボラー」(共和黨)ハ自分ハ現行條約ニ代ルヘキ公平且妥當ナル新條約ノ作成ニ盡力ヲ惜マサルモノナリ新條約問題ハ専ラ通商の見地ヨリ取扱フヘキモノト考フ對日貿易ハ著シク増加シ居リ斯ル重要ナル貿易ハ其ノ一部ナリトモ特ニ首肯シ得ヘキ理由ナク抛擲スルコトハ米國ノ利益ニアラス日本ノ對支目的ニ同情シ得ストノ理由ヲ以テ新通商條約ノ締結ヲ拒否スルコトハ無意味ナリ最近ノ天津ニ於ケル米人貨物ノ運搬ニ對スル障得ノ如キハ戰時氣分ノ場合有勝ノコトニシテ何等重視スルニ

足ラスト語リ同シク上院外交委員ニシテ共和黨ノ有力者タル「バンデンバーグ」モ米國ハ須ク現實的ニ極東問題ノ解決ヲ計ラサルヘカラス自分カ現行條約ノ廢棄ニ賛成シタルハ新條約ノ交渉ヲ爲サンカ爲ニ外ナラス協定ニ達スルコト不可能ナレハ其ノ際喧嘩腰ニ物ヲ言フモ遲カラサルヘク兩國ノ確執ヲ平和的ニ解決スル爲眞劍ナル努力ヲ爲サシテ條約關係ヲ終了セシムルコトハ徒ニ重大ナル悶着ヲ兩國間ニ招來スルモノナリ云々ト語レル趣ナリ



昭和14年11月24日

在サンフランシスコ佐藤総領事より  
野村外務大臣宛(電報)

日米關係に関するフーバー前米國大統領の内

情報報告

サンフランシスコ 11月24日後発

本 省 11月25日後着

## 第一九〇號(極秘扱)

當地滞在中ノ藤原銀次郎ヨリ左ノ通り  
二十二日拙者「フーバー」ニ面會ノ節日米問題ニ付左ノ如キ意見ノ開陳アリタリ右御參考迄ニ報告申上ク但シ右ハ極

祕トシテノ内話ニ付他ニ發表ナキ様願上ク

日米問題ニ關シテハ現在迄ノ經過ニ於テ日本ニモ種々ノ失策アリ米國側ニモ亦同様失策ト認ムヘキモノ多シ現在米國ハ在支權益擁護ト稱シ日本側ニ幾多ノ要求ヲ爲シ居レルモ之ヲ冷靜ニ考ヘル時ハ元來米國ノ在支權益ナルモノハ僅少ニシテ取ルニ足ラス然ルニ之ヲ如何ニモ重大ナル權益ナルカ如ク主張スルハ要スルニ日米間ノ問題ヲ成ルヘク擴大シ次テ何等ノ種ニセントスルモノト見ル外ナシ若シ余カ責任ノ地位ニ在ラハ斷シテ斯ル事ハ爲ササルヘシ他方日本トシテハ支那問題ハ重大ナル死活問題ナレハ餘リ米國側ノ出方ニ遠慮氣兼セス所期ノ目的達成ニ邁進スル事肝要ナリ云々  
米ヘ轉電セリ

1393

昭和14年11月25日  
在米國堀内大使より  
野村外務大臣宛(電報)  
米國國務長官と会談し日米国交調整の必要性  
を強く説示について

ワシントン 11月25日後発  
本 省 11月26日後着

第一四二八號(極祕)

<sup>(1)</sup> 二十四日本使國務次官ト會談ノ約束ナリシ處同日朝「ハル」長官休暇ヨリ歸來シ先方ノ希望ニ依リ長官次官同席ニテ時餘ニ亘リ日米關係ニ關シ懇談セリ

「先ツ本使ヨリ本日ハ別段訓令ニ依ラス自分ノ發意ニテ腹藏ナキ意見交換ノ爲參上セリト前提シ目下日米關係ハ最重大機微ナル時期ニ際會シ居レル處在支米權益問題ハ近ク東京ニ於テ檢討セラルヘキニ付本日ハ米國ニ於テ良ク認識シ居ラレサル重要ナル二點ニ付説明致度シ第一ハ我カ大陸政策ノ目標ニシテ右ハ共產主義ノ脅威ニ對スル國家ノ安全ト天然資源ノ充分ナル確保ニ依ル經濟の安定トニアリ日本ハ支那トノ協力ニ依リ右目的ヲ達成センカ爲多年努力シタルモ種々ノ出來事ニ妨ケラレ端ナク大事變ニ迄發展セリ然レトモ日本ハ素ヨリ支那征服ノ意ナク政府國民共ニ眞實將來ノ日支協力ヲ希望シ居レリ日本政府ハ今ヤ事變ノ急速解決ノ爲努力シ居リ近ク成立スヘキ中中央政府トノ間ニ和平ヲ議スルコトナルヘシ第二ハ支那ノ門戸開放ニ對スル日本ノ態度ナルカ此ノ點ニ付テハ米國內ニ多大ノ疑惑存スル模様ナルモ日本ハ決シテ支那ヨ

リ歐米ノ權益ヲ閉メ出スカ如キ考ナク前記東亞ノ經濟安定ト調和スル限リ歐米トノ協力ヲ欲スルモノナリト述ヘ  
二、進テ今日日米間ニハ原則論ヲ闘ハスヨリハ兩國ノ在支權益ヲ調整シ得ヘキ實際的解決方法ヲ見出ス爲努力スルヲ可トス忌憚ナク云ヘハ米國政府力建設的且共助的態度ニ出テラルルコト望マシク此ノ點ニ付テ一言シタキハ先般モ申上ケタルカ如ク日米兩國力歐洲戰爭ノ他方面ニ波及スルヲ防ク點ニ於テ利益ヲ一ニスルコト竝ニ日本國民ハ素ヨリ米國トノ親善ヲ希望シ居ルモ若シ米國側ヨリ不當ノ壓迫ヲ感スル場合ニハ已ム無ク他方面ニ頭ヲ轉シ或ハ蘇聯邦トノ接近ヲ望ムニ至ルナキヲ保シ難キコトナリト述ヘタルニ（排日移民法成立後間モ無ク日蘇國交快復ノ氣運促進セラレ交渉成立ニ至レル事例ヲ擧ゲ）  
三、<sup>(2)</sup>長官ハ終始傾聽ノ後米國政府ハ各國トノ平和友好關係増進ノ爲常ニ努力シ居リ殊ニ過去六十年ニ亘ル日本トノ親善關係ノ維持ハ米國トシテモ勿論之ヲ希望シ之力爲ニハ日本側ト充分協力スル考ナリ日本カ何レノ國ト接近セラ  
ルルヤハ素ヨリ兎ヤ角言フヘキ限リニアラサルモ假ニ日蘇提携ニテモ成ルコトアラハ獨蘇不侵略協定ニモ等シク

米國民ヲ驚カスヘシトテ頗ル注意ヲ拂ヘル様子ニテ述ヘ  
四、轉シテ日本政府ハ今日迄支那側ニ和平條件ヲ提示サレタルコトアリヤト尋ネタルニ付未タ正式ノ提示ハナカリシモ事變解決ノ條件ハ昨年十二月二十二日ノ近衛聲明ニ明示シアリト答ヘタルニ駐兵ノ點如何滿洲國ニ於ケル如ク新政府樹立シ得ルニ至ル迄駐兵スルコトナルヘキヤト問ヘルニ付同聲明ニハ日本カ支那トノ間ニ防共協定ヲ締結シ其ノ有效期間特定地點ニ駐兵スヘキコトヲ豫想シ居リ從テ駐兵ノ數、地點、期間等ハ右協定ノ際決定セラルルコトトナルヘシト説明シ置ケリ

五、長官ハ現在日本ハ支那ニ八十萬ノ出兵ヲ爲シ居レリト言フ者アル處スル大軍力引續キ駐兵セハ支那ノ經濟狀態平常ニ復スルコト望ミ難ク從テ米國權益ニ對スル諸種ノ障礙モ之ヲ免カレ難カルヘキヲ惧ルト言ヘルニ付日支和平成ラハ勿論警備線ノ整理ヲ豫想シ得ヘク要衝及交通線ノ確保ニ依リ次第ニ秩序ノ回復及經濟ノ平常化ヲ見ルニ至ルヘシト答ヘタルニ長官ハ出先軍ノ充分ナル協力ヲ期待シ得ヘキヤト重ネテ尋ネタルニ付言フ迄モナク政府ハ各方面ト充分ノ打合ヲ盡シ居レリ懸念ハ御無用ナリト述ヘ

置ケリ

六、次ニ長官ハ東亞新秩序ノ意義ヲ尋ネタルヲ以テ要スルニ日滿支ノ協力ニ依リ東亞ノ平和及經濟的安定ヲ確保スルニ在ル旨ヲ述ヘタル處日本ハ結局新政府ヲ相手トシ支那ニ獨占的(Exclusive)利益ヲ設定スルコトトナラサルヤ即チ滿洲ノ如キ獨占的狀態ヲ支那ニ及ホスコトナラサルヤト言ヘルニ付日本政府ハ支那ノ經濟復興ノ爲外國ノ協力ヲ望ムト先刻御話セル通りナリト答ヘタルニ然ラハ日支ノ經濟關係ハ特惠的(Preferential)トナルヘキヤト反問セルヲ以テ日本ハ地理上其ノ他ノ點ニ於テ多クノ便宜ヲ有スヘキモ必スシモ一般的ニ特惠的ト云フ譯ニハアラスト説明シ置ケリ

七、長官ハ會テ貴大使ノ御話ニ依リ日本ハ日支問題ヲ國際會議又ハ第三國ノ調停ニ依リ解決スルヲ欲セラレサルコトヲ承知シ居ルモ然ラハ日本カ蔣政權ヲ相手トセサルハ蔣力責任ヲ執リ得サル爲ナリヤト尋ネタルニ付本使ハ右ノ外蔣ハ西安事件以來國共合作ト抗日政策トヲ堅持シ來リ到底我方ニ於テ之ヲ相手トナシ得サル事情ヲ説明シ置ケリ

八、最後ニ長官ハ今日ノ會談ハ有益ナリシカ要スルニ米國トシテハ日本カ支那ニ於テ次第ニ戰線ヲ擴大シ結局米人ノ生命財産ニ多クノ損傷ヲ蒙リ居ル實情ニ對シ之ヲ默視スルコトハ輿論ニ對シテ許サレサル所ニシテ已ムナク今日迄米國權益擁護ノ爲必要ナル措置ヲ執リ來レル次第ナルカ米國トシテ勿論日本トノ友好關係ヲ希望スルコト既述ノ通りナリト言ヒ國務次官モ米國ハ素ヨリ日米國交ノ調整ヲ望ミ居リ日本側ニ具體的案アラハ喜ンテ之ヲ考慮スヘシト補足セリ

本日ノ會談ハ先方ニ日本ノ對支方針ニ對スル認識ヲ與フルト共ニ日米國交調整ノ必要ヲ印象セシムルヲ目的トシ直接條約問題ニ觸ルルコトハ故意ト之ヲ差控ヘタルカ國務長官等ニ於テモ國交調整ヲ希望シ居ルコトハ充分看取セラレタリ旁「グルー」大使トノ御會談ハナルヘク早目ニ續行相成ルコト極メテ望マシト存ス

英ヘ轉電セリ

英ヨリ在歐各大使ヘ轉電アリタシ

1394

昭和14年11月27日  
在米国堀内大使より  
野村外務大臣宛(電報)

日本が在華米國權益侵害に関する改善努力を  
行わない限りは新通商条約交渉に入るべきで  
はないとの上院外交委員長の談話報告

ワシントン 11月27日前発  
本省 11月27日夜着

第一四三四號

往電第一四二〇號「バンデンバーグ」等ノ意見ニ對シ二十  
五日「ピットマン」ハ左記趣旨ノ「ステイトメント」ヲ新  
聞記者ヘ與ヘタリ

一、余ノ得タル情報ニ依レハ日本ハ依然トシテ在支米權益ヲ  
侵シ居リ日米關係ハ條約廢棄通告當時ニ比シ惡化ハシ居  
ラサル迄モ變化ナシ從ツテ此ノ際米側ヨリ日本ヲ宥ムヘ  
キニ非ス又日本カ九ヶ國條約ノ下ニ負ヘル取極ヲ保持ス  
ル爲若干ノ努力ヲ示ササル限り新通商條約交渉ニ入ルモ  
無益ナリ國際關係明日ヲ測リ知り得サル此ノ際ハ政府カ  
對外問題ニ付テ「イニシアチブ」ヲ執ルヘキ時期ニ非  
ス通商條約問題ニ付テモ亦同様ナリ

1395

昭和14年12月5日  
在ニューヨーク若杉總領事より  
野村外務大臣宛(電報)

二、前議會ニ於ケル提案ハ禁輸法ニハ非スシテ九ヶ國條約侵  
犯國ニ對スル報復ノ權限ヲ大統領ニ附與セントノ趣旨ニ  
シテ中立問題トハ無關係ナリ當時同案ハ其ノ精神ニ於テ  
外交委員會一致ノ贊成ヲ得居リタルヤニ思ハレタルカ最  
近ニ於テ當時ノ條件ニ何等變リナキニ拘ラス外交委員中  
態度ヲ變更シタル者アルハ余ノ喫驚ヲ禁シ得サル所ナリ  
同案ハ通商條約違反問題ヲ惹起スヘシトノ「バンデンバ  
ーグ」ノ意見ニ基キテ政府ハ其ノ障礙タル日米通商條約  
ノ廢棄ヲ通告シタル經緯アリ余ハ今後情況著シク變化セ  
サル限り同案ノ通過促進ニ努ムル積リナリ云々  
紐育ヘ郵送セリ

米國國務省要人が九國条約等に対する日本の  
態度を非難し態度の改善がなければ通商条約  
改定交渉に入らないと語ったとの情報報告

ニューヨーク 12月5日後発  
本省 12月6日前着

第四八二號

淺野物産常務小田カ本官ト協議ノ上「スタンダード」重役ニシテ米國政府筋ト密接ノ關係アル「モフヒット」ヲシテ日米通商條約問題ニ付國務省側ノ意嚮ヲ探ラシメタル處同人力數日前華府ニ於テ國務省要人（同人ハ昨五日本官ト面會其ノ節「ハル」長官及「ウエルズ」次官ト會見セル由語レリ）ニ就キ其ノ意見ヲ尋ネタルニ國務省當局ノ意嚮ハ相當強硬ニシテ九ヶ國條約ヤ門戶開放問題ニ對スル日本ノ態度ヲ云爲シ支那ニ於ケル日本ノ行動ヲ今少シク見極メタル上ニアラサレハ條約改定問題ニハ觸レ兼ヌル様子ナルカ同人ノ得タル印象ニテハ石油ノ對日輸出禁止ハ行ハレサル様見受ケタル趣ナリ  
米ヘ暗送セリ

1396

昭和14年12月8日 外務・陸軍・海軍三省決定

事變に關連した日米懸案の解決促進に關する

外務・陸軍・海軍三省方針

十四、十二、八

陸海軍側ニ於テモ異議ナキ旨回答越セル支那事變關係日米懸案解決促進方針

一、方針

今後ノ積極的日米國交打開工作ニ資スル爲此ノ際今次事變ニ關聯セル日米懸案ノ速急解決ヲ計ルモノトス  
二、要領

- (一) 別添懸案表記載ノ各項目ニ付我方ノ具體的處理方針ヲ明確ニシ且出來得ル限り多クノ懸案解決方ヲ計ルコト
- (二) 右懸案ノ解決ハ明年ノ米國議會開會（一月二日）前ニ一應ノ完了ヲ見ル可ク努力スルコト
- (三) 右懸案解決上ノ指針左ノ如シ

(イ) 被害問題ニ付テハ現地調査ヲ促進シ其ノ完了ノ分ヨリ速カニ現地ニ於ケル米國側トノ解決方交渉ニ移ス  
コト

(ロ) 其ノ他ノ案件ニ付テハソノ種類ニヨリ速カニ中央及ハ現地ニ於テ具體的方針ヲ決定シ右ニ依リ解決ヲ計ルコト

(ハ) 中央ト現地トノ連絡上ノ爲外務省、陸軍省、海軍省及ヒ興亞院ノ關係係官ヲ合同出張セシメ連絡ヲ計ル

コト  
三、備考

尙將來被害事件ノ發生ヲ防止シ經濟活動ニ對スル取扱ヲ合理的ナラシムル爲左ノ如ク措置ス

(一)我軍占領地域ニ於ケル米國人及其財産ノ取扱ニ關シ一層ノ注意ヲ用フルコト

(二)我方現地機關ニ於テ米國人經濟活動ニ何等制限ヲ加フル場合ハ原則トシテ事前ニ中央又ハ出先最高機關ニ經伺スルコト

別表

甲、被害問題

一、空爆(但飛行機ヨリノ機銃射撃ヲ含ム)

ニ 依ル損害

一四四

三、占據、破壊、搬出、使用等ニ依ル損害

七三

乙、其ノ他

一、上海共同租界問題

二、海關及通貨問題

三、鹽務行政機關ノ維持及鹽稅擔保外債問題

四、芝罘港灣改良委員會問題  
五、揚子江閉鎖問題

六、京綏鐵道ノ賣掛金問題

七、「スタンダード」石油會社ノ閉鎖及大同移入石油ノ課税問題

八、北支ニ於ケル皮革類輸出禁止問題

九、芝罘ニ於ケル輸出入許可制度問題

十、山東及中支ニ於ケル「ユニバーサル」葉煙草會社ノ葉煙草買付問題

註

北支ニ於ケル短波「ラヂオ」機械輸入禁止問題、北支ニ於ケル羊毛輸出禁止問題、「ワーナー、ジー、スミス」會社所有桐油ノ抑留問題、上海ニ於ケル郵便檢閱問題等ハ事實上解決シ又ハ殆ト解決シ居ルモノト見做シ得ヘシ



1397

昭和14年12月9日  
在ニューヨーク若杉總領事より  
野村外務大臣宛(電報)

米国の対日感情は悪化しており日本が対中政



策を変更しなければ日米国交調整は困難との

フォーブス前駐日大使の内話報告

ニューヨーク 12月9日後発

本省 12月10日前着

第四八七號

過<sup>(1)</sup>日本官「ボストン」出張中「ジヤパン、ソサイエテイ」會長「フォーブス」前駐日大使ト會談セルカ同氏ハ昨年同様同地ノ對日感情惡化ニ鑑ミ同會ノ活動モ一切政治的性質ノモノニ觸ルルヲ避ケ僅ニ最近時折文化的小集會位ヲ催スニ過キサルヲ以テ從來ノ恆例タル大使ノ歡迎モ爲シ兼ヌル旨辯訴シ本官ヨリ日米通商條約廢棄問題ニ關スル米國ノ態度及同氏ノ所見ヲ尋ネタル處同氏ハ極メテ卒直ニ過般東京ニ於ケル「グルー」大使ノ演説ハ最モ良ク米國民ノ意嚮ヲ表示シタルモノニシテ「ボストン」ニ於テモ日米條約廢棄ニ對シテハ一人ノ異論モナク進ンテ對日輸出禁止ヲ主張スル者モ多數アル有様ニテ同氏ハ右廢棄通告後未タ大統領國務長官又ハ「ホームベツグ」トモ面會セサル故政府ノ意嚮ヲ承知セサルモ日本カ支那侵略ヲ止メサル限り日米關係到底改善セラレサルヘシトテ米國ノ支那ニ對スル傳統的ノ深

甚ナル關心ヲ詳述セルニ付本官ヨリ最近ニ於ケル我方ノ米國權益ノ保護及損害是正ノ實情竝ニ汪ノ中央政府樹立運動等ヲ説明シタル處同氏ハ滿洲事變當時駐日大使ノ經驗ヲ述ヘ米國ノ重要産業タル石油(「スタンダード」)自動車(「ゼネラル、モーターズ」)銀行(「ナシヨナル、シテイ」)ニ對スル壓迫ニ關シ外務省ハ交渉セルモ軍事上ノ必要ヲ口實トシテ一向解決セサリシ實例ヲ舉ケ今回支那ニ於ケル日本側ノ説明モ實現セラルヤ否ヤ疑問ナリト語リタルニ付本官ヨリ然ラハ此ノ儘ニ推移セハ日米關係ハ相當重大ナル局面ニ陥ルヘキ處前大使トシテ現政府力如何ナル方策ニ出ツヘシトノ觀測ナリヤト質シタル處

同氏ハ政府ノ意圖トハ判明セサルモ「ピットマン」ノ對日禁輸意見ハ當方面ノ感情ヲモ良ク表示シ居ルヲ以テ政府カ如何ニ之ヲ處理セントスルヤ見物ナリト云ヘルニ付議員間ニモ「ピットマン」ノ意見ト異レル「ポーラー」「バンデンバーク」等ノ反對說アルヲ指摘シタル處同氏ハ右兩名ハ同氏ト同様共和黨員ナルモ「ポーラー」ハ常ニ他人ノ說ニ反對スル常習癖アリテ彼ノ說ハ常ニ誤リノミニテ「バンデンバーク」ト雖モ大統領ノ候補ヲ以テ任スルモ本件ニ付テ

左シテ勢力ヲ有ストハ思ハレスト斷言セリ依テ本官ヨリ萬  
一米國カ日本ノミニ對シ差別的禁輸ヲ行フカ如キ極端ナル  
措置ニ出ツル場合ニハ利害ノ當否ハ兎ニ角トシテ日本ニ於  
テモ國民的感情モアリ之二對應スル相當ノ覺悟ヲ有シ居ル  
可ク事態ハ相當ニ重大トナルヘシト述ヘタル處同氏カ簡單  
ニ日本カ米國ニ對シ打撃ヲ與フル如キ有效ナル報復手段ハ  
乏シカルヘシト言ヘリ

尙「ゼロム、グリーン」(目下「ハーバート」事務總長)ト  
會談セルニ今春會談セル折ニ比シ對日非難著シク緩和シ居  
リ「ゲガタツ」ニ於ケル空氣ハ大體「フオーブス」ト同様  
ノ觀測ナルモ同氏ハ蘇聯カ芬蘭侵略ニ依リ其ノ本色ヲ現シ  
タル今日日本從來ノ對露關心ノ正當ナルヲ確認スルニ至リ  
日本ハ到底獨露ノ如キ國ト同盟スルトハ信シラレサルヲ以  
テ此ノ際は非トモ日英米合議ノ上支那問題ヲ片付クルノ必  
要アルヘク其ノ協定ノ基礎ハ日本平素ノ主張タル支那二領  
土の野心ナキコト排日政策ノ排除共產主義ニ對スル防衛竝  
ニ經濟的協力ヲ根本義トスルニ於テハ日英米間ニ合議成立  
スヘシト考フル旨述ヘタルカ同氏ハ當地財界ノ親英派一流  
ノ思潮ト同シク最近日蘇接近ノ報道ヲ相當ニ憂慮シ居ル様

感セラレタリ  
米ヘ暗送セリ

1398

昭和14年12月9日

在米國堀内大使より  
野村外務大臣宛(電報)

東京における日米外交調整交渉の進展振りに  
関する國務省の感触報告

ワシントン 12月9日後發  
本 省 12月10日後着

第一四九四號

往電第一四八七號ニ關シ

九日「ハミルトン」ト會見ノ際森島ヨリ本件會談ニ言及シ  
タルニ「ハ」ハ東京會談ハ今日ノ處開始セラレタル程度ニ  
テ國務省トシテハ右ニ關スル大綱ヲ「フオーロー」シ居ルモ  
各種問題ノ處理ハ東京ニ在ル譯ナリト意見ノ表示ヲ差控  
ヘタルモ特ニ六日「ドウマン」ノ吉澤局長トノ會談ノ續行  
ニ期待ヲ懸ケ居ルヤノ口吻ヲ漏セリ尙「アダムス」ハ四日  
ノ會談ハ全體ノ空氣トシテ「エンカレッツジング」ナリト思  
考ストテ「ドウマン」ノ吉澤局長トノ會談ニ關シ兩人從來

ノ親密ナル關係ニ鑑ミ話合ノ圓滿ナル進捗ヲ期待シ得ヘク  
會談ノ速ニ續行セラルルヲ希望スル旨ヲ語レリ

~~~~~

1399

昭和14年12月18日

野村外務大臣  
在本邦グルー米國大使——會談

野村外相が南京下流地域の揚子江開放を表明  
し日米通商航海条約が失効した際の暫定協定  
に関する締結交渉開始を申入れについて

野村大臣「グルー」米國大使會談(第三回)録<sup>☆</sup>

昭和十四年十二月十八日 自午後三時四十五分  
至午後五時十五分

於大臣官邸

大臣 一、日米國交現狀打開ノ問題ニ付イテハ既ニ二回貴大  
使ト懇談ノ機會ヲ得今日ハ第三回目トナリタルカ第一回  
即十一月四日會談ノ際貴大使ハ日米國交現狀打開ノ爲メ  
ニハ日本側ニ於テ米國民ニ對シテ國交改善ノ希望ヲ有ス  
ルコトヲ直接ノ證據ニヨリ示スカ如キ措置ヲ執ルコトヲ  
希望セラレ而シテ右措置ニハ消極的ノモノト積極的ノモノ  
トアルコトヲ述ヘラレタリ次テ去ル四日ノ會談ノ際ニ  
ハ我方ニ於テ貴方提出ノ申入一覽表ヲ分析解剖シテ懸案

又ハ問題ノ真相ヲ明ニシ之ニ對スル解決方針ヲ披瀝シタ  
ル次第ナリ今先ツ右方針ニ基ク解決進捗模様ヲ申上ケン  
ニ

貴大使ノ所謂消極的ノ措置ノ内(一)爆撃ニ付テハ最近ノ數  
字ヲ檢スルニ九月ハ一件十月ハ二件十一月ハ皆無トナリ  
タル事實ニ付テハ貴大使ノ認識ヲ得度シ

次ニ(二)侮辱事件ニ付テハ昨今之ヲ耳ニスルコトナク(三)商  
業上ノ權益ニ關スル問題ニ付テハ最近ニ貴方ヨリ申出ニ  
接シタルモノ二三件アルモ之等ニ付テハ事情糺明ノ上ソ  
レソレ適正ナル措置ヲ執ル方針ナリ

次ニ去ル四日貴大使ニ差上ケ置キタルB表ニ付イテ申上  
クルニ其ノ中甲ニ付テハ我方ハ所謂賠償ノ責ヲ負フヘキ  
立場ニアラサルコト屢次言明ノ通ナルモ、第三國人ノ被  
害ニ對シ慰藉見舞ノ見地ヨリ公正妥當且迅速ニ實質上ノ  
被害ノ補填ヲ實行セムトスル方針ナルコト茲ニ改メテ言  
明シ得ル所ニシテ、此ノ點ニ關シ若シ萬一右趣旨ニ合致  
セサルモノアラハ更ニ考慮ノ餘地アルヘシ又乙ノ内上海  
租界ノ問題中特ニ貴方カ重視セラルルヤニ認メラルル滬  
西カ  
四地區問題ニ付イテモ遠カラス解決ノ見込アリト申上得

可ク之ニ伴ヒ蘇州河以北開放ノ問題モ解決ヲ見ルニ至ル  
ヘシ又ユニヴァーサル葉煙草會社ノ山東ニ於ケル<sup>ニ字ナキ</sup>葉買  
付問題ハ一應ノ解決ヲ見タルコトハ貴大使ニ於テモ現地  
ヨリ報告ニ接セラレタルコトト存ス

海關通貨鹽務行政等支那全般ニ亘ル問題ニ付テハ事態ノ  
變化ト將來ニ對スル影響トニ鑑ミ周到ナル研究ヲ要スル  
次第ナルモ關係國トノ間ニ調整ヲ要スル點ニ付テハ關係  
列國ノ利害ヲ充分考慮ニ入レ實際のニシテ妥當ナル解決  
ヲ見ルヘク折角考究ヲ進メ居ル次第ナリ。

三次ニ申上度キハ帝國軍部ニ於テハ永ラク懸案トナリ居  
リタル揚子江ノ航行問題ニ付キ南京迄ノ下流域域ヲ開放  
スル意嚮ヲ有スルコトナリ同方面ニ於テハ今尙軍事行動  
繼續シ之カ開放ニハ種々ノ不便困難アルモ軍事上ノ要求  
モ漸次緩和シ得ルコトトナリ尙支那モ漸ク建設ノ時期ニ  
入りタルヲ以テ敢テ軍事上ノ不便ヲ忍ビテモソノ一部ヲ  
開放スル心算ナリ併乍ラ開放ニ當リテハ軍事上ノ諸施設  
整理ノ必要モアリ又今日ト雖モ勿論南京迄ノ沿岸地域ニ  
於テモ軍事行動ハ尙繼續中ナルヲ以テ軍事上ノ必要ニ基  
ク制限ヲ附スルコトアルヘキハ勿論ナリ。但シ右制限ト

雖モ時日ノ經過ト共ニ漸次緩和セラルヘシ。尙開放ニ依  
リ同方面ノ經濟生活ヲ不安定ナラシムル結果トナリ折角  
ノ建設ニ打撃ヲ與フルカ如キコトナキ様手配ヲ爲ス必要  
モアリ、本開放ハ出來ルタケ速ニ實施シ度キモ前述諸般  
ノ準備及關係各國トノ話合等ノ必要上只今ノ處大體二ケ  
月後トナル見込ナリ尙珠江ニ付テモ同一趣旨ヲ以テ考慮  
中ナリ。

三十一月四日會談ノ際本大臣ハ國際關係改善ノ爲ニハ相  
互ニ相手方ノ見解ト立場ヲ正確ニ認識スルコト必要ナル  
旨ヲ述ヘタルニ對シ貴大使ノ御同感ヲ得タリ而シテ我方  
ノ關スル限リ敍上縷述ノ如ク右見地ヨリ日米國交改善ノ  
爲逐次爲シ得ヘキ限リヲ爲シ今後モ此ノ方針ヲ以テ進ム  
考ナリ只前回會談ニ於テ貴國一部政治家ノ言論ニ付キ御  
話シタル際新聞又ハ政治家ノ言論抑壓ノ困難ナルコトニ  
付キ貴大使ヨリ御話アリタルカ御承知ノ通り我國ニモ  
種々政府ノ爲ス所ヲ批評反對スル言論アリ國民カ此ノ如  
キ言論ニ動かサル時ハ政府トシテモ之ヲ押シ切り得サ  
ルコトアリ殊ニ揚子江ノ問題ハ一部ニハ支那カ閉鎖シタ  
ルモノヲ我軍將士カ多大ノ犠牲ヲ拂ヒテ啓開シタルモノ

ナレハ之ヲ開放スルノ必要ナシ等ノ議論モアル次第ナルヲ以テ今前述ノ如ク諸懸案ヲ解決シ又揚子江開放ノ具體的準備ニ入ラムトスルニ際シ何等國際關係改善上ノ効果ナキニ於テハ輿論ハ政府ヲ攻撃スルニ至ルヘク然ル場合ニハ獨リ揚子江等ノ開放ノミナラス他ノ懸案解決ニ付テモ種々非難攻撃ヲ醸シ之カ實行上多大ノ困難ヲ來シ茲ニ日米關係ハ改善ノ代リニ逆轉シ其ノ推移計リ知ルヘカサルモノアルヲ惧ルル次第第二シテ貴大使ニ於テモ此ノ邊ノ事情ヲ充分諒察セラレンコトヲ希望ス

十一月四日會談ノ際貴大使カ消極的積極的兩面ノ措置ニ付キ御話相成リタル後「米國ノ輿論ハ之ヲ急速ニ變轉セシムル可能性アルニヨリ右ノ如キ手段ヲ早キニ臨ンテ執ラルルニ於テハ兩國國交ノ改善ノ可能ナルコトヲ信スルモノナリ云々」ト述ヘラレタルコトヲ本大臣ハ茲ニ想起スルモノナルカ米國政府ニ於テハ帝國政府カ幾多ノ困難ヲ排シテ日米國交打開ノ爲メ上記説述ノ通り凡有ル努力ヲ爲シツツアル次第ヲ篤ト御了解相成リ之ト同様ノ精神ヲ以テ我方ノ努力ニレシブロケートスルニ至ランコトヲ期待スルモノナリ現下ノ日米關係ニ最モ暗キ影ヲ投シ居

ルモノハ申ス迄モナク通商條約廢棄問題ニシテ而モ失效期迄ニハ餘ス所一ヶ月餘ニ過キス本大臣ハ前回ノ會談ノ際「本大臣自身トシテハ萬一日米通商航海條約カ失效スル事態ニ至ルトモ日米ノ通商貿易カノ一マルニ行ハレ依テ兩國民ヲ刺戟スヘキ原因存在セサルニ至ルコト」ニ付キ希望ヲ表明シタル次第アル處之カ爲ニハ何等カノ辨法ヲ講スルコト必要ナリ而モ之カ爲メニハ諸般ノ手續ヲ要シ之ニ必要ナル日時等ヲ考慮ニ入レル時ハ今日遷延ヲ許スノ餘裕ナククリスマス休暇ニ入ルニ先立チ之カ交渉ニ入り得ル様取計フノ要アリト思考セラルルニ付テハ此點ニ付御考慮ヲ得度シ

大使 先程ヨリノ御話ヲ承リ米國政府ノ希望ニ副ハントスル日本側ノ努力及精神ヲ多トスル次第ナリ、自分トシテモ出來ルタケ日米國交改善ノ爲ニ盡力致度ク御話ノ次第ハ早速本國政府ニ報告スルコトト致スヘシ。

最後ノクリスマス休暇前ニ何等カノ便法ヲ講スルコト必要ナリトノ點ハ、日本政府ノ暫定協定交渉ニ對スル正式申入レト諒解シ本國政府ニ報告シ差支ナキヤ

大臣 左様報告サレ差支ナシ

大使（之ハ非公式ニ申上クル次第ナリト前提シ別添覺書

（全略）

ヲ基礎トシ話ス）前回ノ會談ノ結果ヲ本國政府ニ報告シタル處之ニ對スル本國政府側ノ意向御傳ヘ致度シ

侮辱事件、爆撃ニ因ル被害ノ減少セルコトハ結構ナルモ、賠償ノ點ニ付日本側ニ於テ一部米國關係賠償ヲ支拂ヒ居ル旨新聞ニ發表セラレ居ル處、事實ハ米國側ノ今迄提出セル損害賠償要請額四十六萬七千八百十三弗ニ對シ僅カニ五萬七千三百三十五弗ノ支拂ヲ受ケタルニ止リ、即チ要請額ノ一割二分ニ過キス、若シ支那貨ノ減價ヲ考慮ニ入ルル時ハ三分七厘ヲ支拂ヒタルニ過キサルコトナル、尙最近五十九件ノ賠償事件ニ對スル現地日本側官憲ノ回答ニ依レハ其大部分ハ日本側ニ於テ支拂ノ責任ナシトシ居ル次第ニテ事實スカル狀態ナルニ拘ラス日本側ニテ多額ノ賠償ヲ支拂ヒタルカ如ク大袈裟ニ發表セラルルコトハ米國民衆ヲ誤リ却ツテ逆效果ヲ生スル處アリ

次ニ通商上ノ制限爲替管理等ノ爲米國商社側ハ巨大ノ損害ヲ今尙蒙リツツアリ、又北支開發會社、中支振興會社及是等ノ子會社等ノ獨占の企業ハ第三國人ノ利益ニ對シ重大ナル影響ヲ及ホシ居ル處、斯カル制限乃至獨占の企

業ハ軍事行動終熄ト共ニ解消サルルモノナリヤ其邊ノ意見御伺致度シ

要之米國側トシテハ日本側ニ於ケル懸案解決ノ誠意ハ多トスルモ、其ノ實行ニ於テハ未タ問題ノ外廓ニ觸レタルニ過キサルコトヲ遺憾トシ居ルモノナリ

大臣 屢次申上ケタルカ如ク大規模ノ戰鬪行爲行ハレツツアル現狀ニ於テハ軍事上其ノ他ノ必要ヨリ第三國ノ權益カ或ル程度ノ制限ヲ受クルコトハ已ムヲ得サル所ナルモ米國側權益ノ保全ニ付テハ日本側ニ於テ出來得ルタケノ努力ヲ拂ヒ居リ其ノ結果トシテ爆撃其ノ他毆打事件ノ減少ヲ見タル次第ナリ

損害賠償問題ニ付支拂額ノ少ナルヲ云々サルルモ元來日本政府トシテハ損害賠償ノ責ヲ負フヘキ立場ニアラサルコトハ御諒承アリタク但慰藉ノ意味ヨリ公正且妥當ナル方法ニ依リ實質上ノ損害填補ヲ行フ方針ノ下ニ日米現地當局間ノ話合ニ依リ賠償問題ノ解決ヲ促進スルコトト致度シ

獨占企業爲替管理等ノ問題ハ元來ハ支那新政府ノ決定スヘキ筋合ナルカ將來日支間ノ戰鬪行爲停止セラレ新中央

政府成立シ事態ノ改善ヲ見ルニ至ラハ漸次緩和セラルル  
ニ至ルヘシト史料ス

又支那開發ニ當リ米國資本ヲ歡迎スルコトハ屢次御話申  
上ケタル所ニシテ日本側ニ於テ排他獨占ノ意嚮無キ次第  
ナリ

最後ニ揚子江開放ノ點ニ付テハ貴大使トノ會談後關係國  
大使ニ通報スル筈ナルニ付右御含ミ置キアリタシ

右終リテ揚子江開放ニ關スル發表ノ件ニ付グルー大使ヨリ  
適當ノ時期等曖昧ナル字句ヲ用フル時ハ米國民ハ又例ノ通  
リ何時ノコトニナルヤラ分ラストテ輿論好轉ニ資スル何物  
モナカルヘキニ付自分(グルー大使)ヨリ米人記者ニ對シテ  
ハ約二箇月後ニナルヘシトノ趣旨ヲ話シ度キ旨申出アリタ  
ルニ付大臣ヨリ差支ナカルヘキ旨述ヘ置ケリ。

1400

昭和14年12月18日

## 野村・グルー会談に関する情報部長談話

野村外務大臣「グルー」米國大使會談ニ關スル  
情報部長談話

(昭和十四年十二月十八日)

野村「グルー」會談ノ内容及意義ニ付テ新聞記者ノ質問ア  
リシニ答ヘテ須磨情報部長ハ左ノ通り語ツタ。

野村大臣ハ本日「グルー」大使トノ會見ニ於テ、支那事變  
中ニ於ケル在支米國權益ニ對スル各種ノ制限等ハ、對支軍  
事行動ニ伴フ已ムヲ得ナイ結果デアルガ、又ハ長期建設ニ  
併行シテ行ハル各種變革ノ當然ノ影響デアル。帝國政府  
トシテハ之等ニ就テノ所謂懸案問題ハ、從來其解決ノ爲熱  
心努力シテ來タノデアリ、今後其盡力スル意向デアル。然  
ルニ從來日本ヲ動タトモセバ獨占排他的ノ行動ヲ執ルモノ  
デアルト誤解スル向モアリ甚ダ遺憾デアル。帝國政府ニ於  
テハ各國ノ對支經濟活動ヲ將來ニ亘リ閉鎖スル目的ヲ以テ  
行動シテ居ルノデハ無イ。例ヘバ揚子江及珠江ノ如キモ適  
當ノ時機條件ノ下ニ開放スルニ吝カデナイコトヲ懇切ニ説  
明サレタ。之ニ依テ米國政府ハ勿論他ノ諸國モ我眞意ヲ諒  
解センコトヲ希望シテ居ル。

1401

昭和14年12月22日

野村外務大臣  
在本邦グルー米國大使——會談



グルー大使が通商協定の基礎要件として占領

地域を含む無差別待遇の遵守を挙げ暫定協定

締結交渉には暫く応じない旨を回答について

付記一 右会談においてグルー大使が手交した覚書の

和文要約

二 昭和十四年十二月二十七日、外務省対米政策

審議委員会幹事会決定

「日米國交是正ニ關スル意見書」

三 昭和十五年一月十六日付

藤村亞米利加局第一課長より有田外務大臣宛

「對米外交刷新ニ關スル意見書」

野村大臣「グルー」米國大使會談錄(第四回)

昭和十四年十二月二十二日午后五時半ヨリ

約一時間大臣官邸ニ於テ

(昭一四、一二、二三 米一)

(今次會談ハ去ル十八日ノ會談ニ引續キ米國側ヨリノ申込  
ニ依リ行ハレタルモノニシテ前會談ニ於テ爲セル野村大臣  
ノ提案ニ對スル米側ノ回答ヲ述ベタルモノナリ)  
先ヅ「グルー」大使ハ日米關係打開ノ爲ニ日本側ノ爲シタ

ル努力ヲ多トスル旨ヲ述ヘ次イテ前會談ニ於テ日本側ノ爲  
シタル新條約締結交渉開始ノ提議ニ關シテハ米國政府ハ日  
本政府ノ參考迄ニ其ノ立場ヲ明ニセル「ステートメント」  
ヲ用意セル旨ヲ述ヘ別添ノ如キ非公式書物(別紙甲號參照)  
ヲ野村大臣ニ手交セリ。右ハ米國政府ハ「通商上ノ權利及  
機會ノ均等原則」ヲ通商條約締結ノ基礎條件ト爲スモノニ  
シテ從テ右原則確立カ新通商條約締結ノ先決要件ニテ又其  
レニハ單ニ相手國ノ政策竝措置力問題ナルノミナラス相手  
國ノ勢力下ニ存スル第三國ニ於ケル米國人ノ取扱ニ關スル  
點モ問題視セラルルモノナル處目下日本軍ノ占領地下ニ於  
テハ種々ノ通商居住移動等ニ關スル制限存在シ米國ノ商業  
上ノ權益ニ對スル均等待遇ヲ不可能ナラシメ居ルヲ以テ右  
ハ新條約締結ニ對スル障礙ナルモノナルコトヲ指摘セルモ  
ノナルカソノ要旨左ノ通

一、米國政府力健全ナル國際關係ノ基礎要件ト目スル周知一  
定ノ原則及手續ヲ基礎ト爲ス限り同政府ハ凡テノ國ト通  
商取極ヲ締結スルノ用意アリ  
二、同政府ハ無差別待遇ヲ其ノ通商政策ノ根本原則ト思考シ  
且通商上ノ權利及機會ノ均等ノ原則ヲ以テ新通商取極締



結ノ唯一ノ基礎條件ト爲スモノナリ過去ニ於テ通商上ノ制限カ主トシテ關稅ニ存シタル時代ニハ均等待遇ノ一般の相互の誓約ニ依リ事足りタルモ近年ノ如ク割當、獨占、爲替管理、輸出入制限、送金制限等ニ依リ貿易ヲ統制スルニ至リタル以上從來ノ均等待遇ノ一般の保障ヲ補足ス可キ新規定ヲ必要トスルニ至リタリ右ノ如キ近年ノ經驗ニ鑑ミ米國政府ハ新通商條約又ハ協定締結ノ代價條件トシテ先ツ以テ通商上ノ無差別待遇カ保障サレ且右待遇ヲ確保ス可キ措置ノ講セラル可キコトヲ要求ス

三、一國ト新通商條約又ハ協定締結交渉ヲ目論ムニ當リ米國政府ハ單ニ相手國政府ノ政策ヲ檢討スルノミナラス同國ノ第三國ニ於ケル政策及措置ヲ檢討セサルヲ得ス何トナレハ相手國又ハ其ノ出先機關カ第三國ニ於テ米國ノ通商上ノ權益ニ對シテ課スル差別待遇モ亦米國ニ對シ有害ナレハナリ然ルニ現在日本軍ノ占領スル支那ノ廣汎ナル地域ニ於テ斯ル差別待遇ハ爲替及通貨管理、輸出入ニ對スル課稅並ニ制限、獨占、並ニ航運、旅行、居住、貿易ニ對スル制限ニ依リ行ハレツツアリ

四、右ノ如ク支那ノ廣汎ナル地域ニ亘リテ米國ノ通商權益ニ

對スル均等待遇ヲ不可能ナラシムルカ如キ措置カ日本政府又ハ其ノ出先官憲ニ依リ講セラレ居ル限り日本トノ新通商條約又ハ協定締結ノ障礙存在ス

五、新通商條約又ハ協定締結ノ交渉ニ入ルニ先立チ米國ノ行政府及立法部ハ共ニ相手國カ其ノ勢力範圍ニ於テ米國品及米國ノ事業ニ對シ與ヘ居ル具體的取扱ヲ檢討スルノミナラス右範圍ニ於テ相手國カ米國ノ通商一般ニ對シテ與フル一般の取扱ヲモ檢討スルモノナリ

六、米國政府ハ以上ヲ以テ新通商條約又ハ協定締結交渉ニ關シ考慮ス可キ重要問題ヲ指摘セル處日本政府ニ於テモ右問題ノ重要性ヲ認メラレンコトヲ希望シ且日本政府カ其ノ方針ノ實效ヲ示ス可キ具體的證據ヲ提示セラルルコトヲ欣幸トナスモノナリ

右問題中ノ或件ニ關シテハ「グラー」大使ト野村大臣トノ間ノ非公式會談ニ於テ既ニ討議セラレツツアルモ日本政府ニ於テ更ニ右問題ニ關スル情報ヲ要求セラルルニ於テハ米國政府ハ之ヲ提供スル用意アルモノナリ

尙同大使ハ右「ステートメント」ニ關聯シ前任諸大臣ノ米國側ニ對シテ與ヘタル種々ノ保障カ實行セラルルコトヲ希

望スル旨附言セリ

次イテ同大使ハ暫定協定締結ノ件ニ關シテハ米國政府ハ本問題カ茲暫ラク未決定ノ儘殘サレル (be left open) コトヲ提議スル旨ヲ述ヘ且米國政府ノ見解ハ日米兩國間ニ新通商條約又ハ協定締結問題ニ關係シ種々考慮ノ要アル事項ニ關シ野村大臣ト同大使トノ間ニ進行中ナリシ本討議ヲ續行スルコトヲ適當ト認ムルモノナル旨述ヘ(別紙乙號參照)更ニ一九一三年關稅法ノ規定ニ從ヒテ米國ニ入ル日本船ノ載貨ニ對シ賦課セラルヘキ從價一割稅ニ關シテハ更ニ何分ノ命令ノ發セラルル迄右賦課ヲセサルヘキコトヲ大藏省ハ關稅徵收官ニ對シ間モ無ク指令スヘク且日本船ニ對スル差別的噸稅ノ賦課ニ關シテハ商務省カ同様措置ヲ執ルヘキ旨述ヘタリ(別紙丙號參照)

右ニ對シ野村大臣ハ米國カ無條約狀態ニ入ルトモ日米間ノ貿易ヲ「ノーマル」ナラシムル處置ヲ講スルコトハ之ヲ多トスルモ本來通商條約ハ單ニ貿易關係ノミニ關スルモノニ非スシテ一般關係ニモ影響ヲ持ツモノナレハ兩國關係ヲ安定セシムル見地ヨリ暫定協定締結ニ關シ米國側ノ再考ヲ促ス旨述ヘタル處「グルー」大使ハ右ヲ本國政府ニ精確ニ取

次キタキニ依リ非公式書物ヲ得タキ旨述ヘタルヲ以テ別添丁號ノ通りノ書物ヲ後刻送付セリ

次イテ野村大臣ハ right of establishment ノ點ニ關スル米國政府ノ態度ヲ質問セルニ對シ「グルー」大使ハ右ニ關シテハ返答スルノ地位ニアラサル旨應酬セリ

最後ニ「グルー」大使ハ先般ノ吉澤「ドウマン」會談ニ言及シ華府ニ於テ日本側カ具體的ナル暫定協定案ヲ用意シアルコトハ承知シ居レル旨ヲ述ヘタル上本日ノ會談ノ結果ヲ本國政府ニ報告スヘキ旨述ヘタリ

尙發表振リニ關シテハ「グ」大使ヨリ日米國交打開ノ爲ニ引續キ建設的態度ヲ以テ會談ヲ續行シ進展ヲ見タリト云フ程度ノ發表ニ止メ從價一割稅並ニ噸稅等ノ點ニ付テハ外部發表ヲ差控ヘラレタキ旨ヲ希望シ野村大臣ニ於テ右ヲ應諾セリ

以上

(別紙甲号)

# PRO MEMORIA

1. The Government of the United States has

repeatedly expressed its willingness to enter upon commercial treaties or agreements with all countries on the basis of certain well known principles and procedures which this Government regards as fundamental to sound international relations.

2. The Government of the United States regards non-discriminatory treatment as the foundation principle of its commercial policy and considers the rule of equality of commercial rights and opportunity to be the only and desirable basis for concluding commercial treaties or agreements. The history of the commercial policies of the leading trading nations of the world demonstrates conclusively that the negotiation of commercial agreements based upon any other principle leads inevitably to friction and the taking of counter measures by injured third nations to the stifling of the legitimate trade of all nations ..... chaotic international commercial relations. In the past when the principal restrictions on trade consisted of tariff duties non-discriminatory treatment

could usually be assured by mutual general pledges of equality of treatment; but in recent years new forms of trade restrictions such as quantitative limitations, monopolistic instrumentalities, exchange control and related measures affecting importation and exportation of goods and remittance of funds have achieved such importance as methods of regulating trade, that to ensure non-discriminatory treatment it has been found necessary to have new provisions supplementing the standard provision or rule of equality of treatment. For example with regard to quantitative limitations on trade it has been found essential in order that non-discriminatory treatment may be established beyond doubt to have in force an expressly defined procedure assuring exporting countries opportunity to supply fair shares in the total of imports permitted. Similarly with regard to exchange control, it is important that there be established a procedure providing for the supplying of foreign exchange for trading and other purposes in such a manner as to ensure against

discrimination. In the light of modern experience, the Government of the United States signifies as a *since qua* non for entering into negotiations with a country looking toward the conclusion of a commercial treaty or agreement, that it be understood in advance that non-discriminatory treatment is to be made the base of commercial intercourse and that there are to be established procedures designed to ensure non-discriminatory treatment.

3. In contemplating the negotiation of a commercial treaty or agreement with any country on the foregoing basis, it is naturally appropriate for the Government of the United States to examine not only the policies and practices of the country in question as they are applied within that country's territory but also the policies and practices of the country as they affect Americans with and in third countries. Substantial and continuing discriminations against the commercial interests of the United States brought about by the influence or by agencies of any

country within the territory of a third country are obviously injurious to the United States. If such discriminations have been imposed in a third country against that country's wishes it is apparent that the discriminations can be removed most effectively and expeditiously by action on the part of the nation which imposes, or which causes the imposition of, the discriminations. Such discriminations are at present in effect throughout large areas of China occupied by Japanese armed forces. These discriminations have been brought about by agencies which are directed by the Japanese Government or agents thereof and which exercise control over the economic life of such areas to the special advantage of Japanese interests through such instrumentalities as exchange and currency control, levies upon and restriction of exports and imports, monopolies and restrictions upon navigation of China's waterways and upon travel and residence and trade in various ports of China.

4. It follows that so long as agencies and instrumentalities of the Japanese Government continue in fact to render inoperative the practice of equality of treatment for American commercial interests throughout large areas of China there exists a serious obstacle to the conclusion by the United States of a new commercial treaty or agreement with Japan. Entirely apart from the question of existing treaty commitments and treaty rights, this obstacle to the conclusion of the new commercial treaty or agreement would be present by virtue of the discriminatory practices which at present thus prevail in the occupied area in China.

5. In giving consideration to the questions of entering with any other country into a new treaty or agreement for the regulation of commerce, the Government of the United States in both its executive and its legislative branches must and does take full account not only of the treatment accorded by the authorities of the other countries, in areas under the control of these authorities, to American goods

and American enterprises but also of the treatment accorded by those authorities in such areas to American commerce as a whole including American nationals, American firms, American investments and American economic and cultural activities in general. The principle of equality of treatment is applicable in all areas and carries implicit within itself the principles of non-discrimination and of fair treatment.

6. The Government of the United States has set forth hereinbefore what it regards as important considerations bearing on the questions of the concluding of a new commercial treaty or agreement between the United States and Japan. The Government of the United States hopes that the Japanese Government likewise attaches importance to these considerations, and the Government of the United States will be glad to have evidence of the steps which the Japanese Government is taking towards giving practical effect to its attitude. Certain of these considerations have recently been discussed between the

American Ambassador to Japan and the Japanese Minister for Foreign Affairs in informal conversations in Tokyo, and should the Japanese Government desire further information in regard to them the Government of the United States is of course ready to furnish it.

December 22, 1939.

(岡藏N中)

#### ORAL STATEMENT

The American Government is sincerely appreciative of the efforts made by the Japanese Government with a view to remedying conditions which adversely affect the relations between the United States and Japan, as well as of the indication that it intends to persevere in those efforts.

With relation to the statement of the Minister for Foreign Affairs regarding the question of initiating negotiations looking to the conclusion of a new treaty the American Government has drawn up a statement of its position in this matter for the information and

consideration of the Government of Japan.

Regarding the matter of the conclusion of a modus vivendi the American Government suggests that this question be left open for the time being.

The American Government is of the opinion that it would now be appropriate to continue the discussions, which have been progressing between the Minister for Foreign Affairs of Japan and the American Ambassador at Tokyo dealing with the considerations having a bearing upon the matter of the conclusion of a new Commercial Treaty or agreement between the two countries.

December 22, 1939.

(岡藏N中)

#### ORAL STATEMENT

The Treasury Department of the United States of America will shortly issue a communication to the Collectors of Customs of the United States and to others concerned wherein it will be stated that following the

expiration of the Treaty the ten per cent ad valorem discriminating duties provided for in the 1913 Tariff Act shall not be collected on those goods which enter the United States in Japanese bottoms, unless and until additional instructions are given out. A decision which is similar in effect has also been made by the Commerce Department regarding discriminating tonnage duties on ships.

December 22, 1939.

(別紙丁号)

米國政府ニ於テ日米通商條約失效后ト雖モ兩國間ノ通商カ平常通り行ハレンカ爲必要ナル措置ヲ執ルニ決定セラレタルコトハ洵ニ多トスル所ニシテ又右ニ對スル貴大使ノ御盡力ヲ深ク感謝スル次第ナリ但通商條約ノ問題ハ單ニ兩國通商關係ノ問題タルニ止マラス一般的國交ニ關スル所大ナルヲ以テ日米間カ無條約狀態トナリタル時假令通商關係カ大体平常通り維持セラルト雖モ暫定的ニテモ何等取極メナキ場合ニハ兩國間ノ通商カ明日ヲモ測ラレサル不安ノ觀ヲ呈

スヘク惹テ兩國ノ國交カ如何ニモ不安定ナル印象ヲ與フルコトナルヲ以テ日米關係改善ノ大局の見地ヨリ暫定協定締結方ニ付貴國政府ノ深甚ナル御考慮ヲ得ル様致度シ日本側ニテハ夙ニ此見地ヨリ研究ノ結果暫定協定ニ付一案ヲ得テ之ヲ在華府堀内大使ニ電報シアルコトハ曩ニ吉澤局長ヨリ「ドーマン」參事官ニ申上ケアル通ナルカ華府ニ於ケル談合ノ都合ニ依リ右案ヲ國務省側ニ提出スル事トナリ居ル次第御含置アリタシ。

(付記一)

昭和十四年十二月二十二日野村「グラー」第四回會談

ノ際米國側ノ手交セル「プロ、メモリア」(要旨)

一、米國政府カ健全ナル國際關係ノ基礎要件ト目スル周知一定ノ原則及手續ヲ基礎ト爲ス限り同政府ハ凡テノ國ト通商取極ヲ締結スルノ用意アリ

二、同政府ハ無差別待遇ヲ其ノ通商政策ノ根本原則ト思考シ且通商上ノ權利及機會ノ均等ノ原則ヲ以テ新通商取極締結ノ唯一ノ基礎條件ト爲スモノナリ過去ニ於テ通商上ノ制限カ主トシテ關稅ニ存シタル時代ニハ均等待遇ノ一般



的相互の誓約ニ依リ事足りタルモ近年ノ如ク割當、獨占、爲替管理、輸出入制限、送金制限等ニ依リ貿易ヲ統制スルニ至リタル以上從來ノ均等待遇ノ一般の保障ヲ補足ス可キ新規定ヲ必要トスルニ至リタリ右ノ如キ近年ノ經驗ニ鑑ミ米國政府ハ新通商條約又ハ協定締結ノ代償條件トシテ先ツ以テ通商上ノ無差別待遇カ保障サレ且右待遇ヲ確保ス可キ措置ノ講セラル可キコトヲ要求ス

三、一國ト新通商條約又ハ協定締結交渉ヲ目論ムニ當リ米國政府ハ單ニ相手國政府ノ政策ヲ檢討スルノミナラス同國ノ第三國ニ於ケル政策及措置ヲ檢討セサルヲ得ス何トナレハ相手國又ハ其ノ出先機關カ第三國ニ於テ米國ノ通商上ノ權益ニ對シテ課スル差別待遇モ亦米國ニ對シ有害ナレハナリ然ルニ現在日本軍ノ占領スル支那ノ廣汎ナル地域ニ於テ斯ル差別待遇ハ爲替及通貨管理、輸出入ニ對スル課税竝ニ制限、獨占、竝ニ航運、旅行、居住、貿易ニ對スル制限ニ依リ行ハレツツアリ

四、右ノ如ク支那ノ廣汎ナル地域ニ亘リテ米國ノ通商權益ニ對スル均等待遇ヲ不可能ナラシムルカ如キ措置カ日本政府又ハ其ノ出先官憲ニ依リ講セラレ居ル限り日本トノ新

通商條約又ハ協定締結ノ障礙存在ス

五、新通商條約又ハ協定締結ノ交渉ニ入ルニ先立チ米國ノ行政府及立法部ハ共ニ相手國カ其ノ勢力範圍ニ於テ米國品及米國ノ事業ニ對シ與ヘ居ル具體的取扱ヲ檢討スルノミナラス右範圍ニ於テ相手國カ米國ノ通商一般ニ對シテ與フル一般の取扱ヲモ檢討スルモノナリ

六、米國政府ハ以上ヲ以テ新通商條約又ハ協定締結交渉ニ關シ考慮ス可キ重要問題ヲ指摘セル處日本政府ニ於テモ右問題ノ重要性ヲ認メラレンコトヲ希望シ且日本政府カ其ノ方針ノ實效ヲ示ス可キ具體的證據ヲ提示セラルルコトヲ欣幸トナスモノナリ

右問題中ノ或件ニ關シテハ「グルー」大使ト野村大臣トノ間ノ非公式會談ニ於テ既ニ討議セラレツツアルモ日本政府ニ於テ更ニ右問題ニ關スル情報ヲ要求セラルルニ於テハ米國政府ハ之ヲ提供スル用意アルモノナリ

#### (付記二)

日米國交是正ニ關スル意見書

(四、三、三 對米政策審議委員會幹事會決定)

一、最近ノ野村大臣「グルー」大使間ノ會談ニヨリ米國政府ノ支那事變ヲ繞ル對日政策ノ眞髓ハ愈々明瞭化セラレツツアリ、米國政府ノ當面問題トスル點ハ新通商條約又ハ協定ノ締結自体ニ非スシテ米國側ニ於テ右締結ノ前提條件ノ一要素ト見做ス在支米國權益ノ取扱ニ關シ日本カ如何ナル政策ヲ執ルヤニアリ。而シテ本點ニ關スル米國側ノ態度ハ今日表面上ハ日本ノ支那ニ於ケル對米差別的待遇ニ對スル是正ヲ執拗ニ要求シソノ重點ハ米國ノ在支經濟的及文化的活動ノ保障ニ置キ居ルモノノ如キモ、元來日本ノ理想トスル東亞新秩序ノ經濟組織ハ政治的基礎ノ上ニ計畫セラレ居ルモノナルヲ以テ、米國ノ例ヘハ在支經濟權益ニ對スル均等待遇ノ主張ハ必然的ニ日本ノ支那ニ對スル政治的計畫ノ變更ヲモ要求スルコトナルヘク、從ツテ米國ノ支那ニ對スル對日政策ハ本質上九ヶ國條約ノ實質容認ノ要求ヲ重點トスルモノナルコトヲ認識セサルヘカラス。故ニ我方刻下ノ急務ハ左ノ如キモノト認ム

(イ)日本カ日米間無條約狀態ノ到來ヲ恐怖シ居ルカ如キ印象ヲ與フル事カ結局米國ノ對日壓迫ヲ累加スルモノナルコトヲ銘記スルコト

(ロ)前記ノ如キ米國ノ對日政策ニ對應シ米國側ノ要求シ來ルヘキ各項目ニ付日本ノ米國ニ對シ容認シ得ル眞ノ最後の境界線ヲ出來得ル限り具體的ニ確定スルコト

(ハ)官民トモ右境界線ヨリハ一步モ退却セサルヘシトノ腹ヲ据エ、米國ノ壓迫ニ對シ心的物的ノ準備ヲ爲スコト

二、尙右ニ關聯シ目下ノ日米關係ノ重大ニシテ聊カモ之ヲ樂觀シ得サルコト從ツテ舉國一致シテ之カ對策ニ當ラサルヘカラサルコトニ鑑ミ政府ハ一般國民ニ對シテモ事態ノ眞相ニ付常ニ適確ナル認識ヲ與フルコト極メテ必要ナリト認メラルルニ付、外務省ニ於ケル情報發表ニ當リテハ右ノ點ヲ特ニ留意スルト共ニ例ヘハ海外ヨリノ同盟通信ノ取扱ニ付テモ其ノ處置ヲ誤ラサルコト必要ナリ。

以上

### (付記三)

對米外交刷新ニ關スル意見書

昭和十五、一、十六

一、現下ノ帝國外交ハ東亞新秩序建設ノ最高目標ニ集中セラレサル可カラサルコトハ論ヲ俟タサル所ナリ。而シテ我

カ對米外交力從來ノ消極の煩被リ主義ヲ脱シ積極の二右新秩序建設ノ軌道ニ第一歩ヲ踏出シタルハ一昨年十一月三日ノ近衛總理ノ聲明ヲ基調トセル同月十八日附ノ我カ對米回答ノ發出ニ在リト言フ可シ。當時廣東ノ陷落二次イテ武漢三鎮ノ攻略アリ、事變處理漸ク建設期ニ入ルト共ニ東亞新秩序建設ノ大理想澎湃トシテ全國民ノ間ニ湧キ其ノ國民的意氣タルヤ實ニ軒昂タルモノアリタリ。爾後一星霜餘其ノ間内外共ニ頗ル多端ナリシト雖モ事變處理漸ク外交ノ舞臺ニ入り來ルト共ニ歐洲不安ノ惡化ト歐亂ノ再發ニヨリ國際ノ諸情勢我ニ有利ニ展開シ來リ今ヤ正ニ外交ノ眞價ヲ發揮シ發展日本ノ進路ヲ啓開ス可キ好機到來シ外交當局ノ責任益々其ノ重キヲ加ヘ來レリ。然ルニモ拘ハラスコノ重大時期ニ際シ我カ外交擔當ノ首腦者ハ、コノ一年前ノ國民的氣魄ヲ<sup>(18)</sup>妄レタルカ如ク、東亞新秩序建設ノ大理想ヲ喪失セルカ如ク且又相手國ノ動向ヲ察知スルノ明ナク、毅然トシテ自ラヲ主張スルノ勇無ク、事變收拾ヲ急クノ餘リ國交調整ノ爲ニ根本ノ事變完遂ノ使命ヲ忽緒ニシテ本末顛倒ノ過誤ヲ犯シツツアリ。斯クテハ我外務當局モコノ發展民族ノ進路啓開ノ重責ハ

果シ得ヘクモ無ク、東亞新秩序建設モ遂ニ外交ノ一角ヨリ崩壞ノ運命ニ在リト云フ可シ。我等帝國臣民トシテ又外務省事務當局ノ一員トシテ憂ヘサラント欲シテモ得サル所ナリ。

近時斯クノ如ク、事變意義ノ把握ニ於テ、國際情勢ノ認識ニ於テ、外交責任ノ自覺ニ於テ、將又對外政策ノ立案遂行ニ於テ、外務省主腦部ト事務當局ノ對立遊離ノ狀態頗ル顯著ナルモノアルハ此ノ重大時局ニ際シ遺憾ノ極ミナリト云ハサルヲ得ス。然リト雖モ右諸點ニ關スル兩者ノ對立遊離ハ主腦部ノ不明ト不信ト眞劍味ノ不足トニ基因スルモノナルヲ以テ事務當局ニ對スル單ナル「デイシブリン」ヲ以テハ之ヲ解消シ得サル可ク、此ノ機ニ當リテ人事ノ刷新ヲ敢行シテ時局ノ要求スル適材ヲ適所ニ置キ、新ナル覺悟ト感激ヲ以テ再出發ヲナシ、以テ外務省ノ全機構及全智囊ヲ傾ケタル偉大ナル綜合力ヲ發揮シテ國家ノ要望ニ應エスハ我等何ノ顏アツテカ 天皇ノ官吏ノ地位ニ止リ得ンヤ。

三、過去半歳ノ間ニ於テ外務省主腦部ト事務當局トノ間ニ根本的ナル意見ノ對立ヲ見タル事件三アリ、今其ノ對立ノ

眞諦ヲ窮明スレハ左記ノ通りナリ。

(イ) 米國ノ日米通商條約廢棄通告對策

昭和十四年七月二十六日米國カ通商條約廢棄ヲ通告シ來ルヤ右對策ヲ研究立案スル爲組織セラレタル關係課長ヨリ成ル對米政策審議委員會幹事會ハ數次會合ノ結果八月八日米國ノ斯ル非禮ナル措置ヲ其ノ儘ニ放置スルハ帝國ノ威信ヲ失墜スル所以ナルノミナラス益々ソノ對日壓迫ノ氣風ヲ増長セシムヘキガ故ニ、米國側ニ反省ノ機會ヲ與ヘテ彼ノ驕慢態度ヲ是正セシムルト共ニ我方ノ對米政策モ亦慎重ニ再檢討ヲ爲ササル可カラストノ信念ノ下ニ、駐米帝國大使ノ召還ト「ドウーマン」在京米國代理大使ニ對スル抗議申入レ等ヲ強く主張シ、一方米國ノ非禮措置ヲ反撥スルト共ニ他方帝國ノ眞意徹底ノ爲突込ミタル話合ヲナスノ端緒ヲ得ンコトヲ期シタリ。

之ニ對シ關係局部長ヨリナル同審議委員會ハ八月二十日ニ至リテ漸ク、此ノ際米國ヲ刺激スルハ不得策ニシテ靜觀態度ヲ持ス可シトナシ、大使召還ニ關シテハ纔カニ在米公館ノ人事刷新ノ方針ヲ決定セルコトニ依リ

可及的速ニ駐米大使ノ更迭ヲ行フ可キコトヲ承認シ更ニ右條約ハ米國側カ廢棄セルモノナルニヨリ我方ヨリ新條約締結ノ申出ヲ爲スコトハ嚴ニ差控フ可シト爲シテ對米宣傳機構ノ擴充ノ必要ナルコトヲ議決セリ。

然ルニ其ノ後今日迄ニ至ル經過ヲ檢スルニ、米國ハ我方ノ所謂靜觀實ハ無策態度ニ自信ヲ深メテ次々ニ對日强硬態度ニ出テ來リ又主腦部カ自ラ決セル在米公館ノ人事刷新並宣傳強化ノ方針及條約問題ヲ我方ヨリ持出ス可カラストナス方針ハ一片ノ作文ト化シテ一ツハ何等ノ實行ヲ見ス、一ツハ自ラ其ノ方針ニ反シ節ヲ扞ケテ我方ヨリ條約問題ヲ米國側ニ持出スニ至リ其ノ不明ハ國家ヲ害シ其ノ不信ハ省内ノ人心ヲ倦マシメタリ。

(ロ) 貿易省問題

昭和十四年十月初旬所謂貿易省問題惹起スルヤ、之ニ對處セル本省主腦部ノ出所進退ノ不明ナリシ事重ハ敢テ茲ニ贅言セサル可シ。同問題ノ爲ニ鬭爭中我等ノ心頭ヲ離レサリシ切ナル念願ハ外務省カカク迄團結シテ國家ヲ憂ヒタルカノ眞劍サ、カノ眞面目サ、カノ意氣ヲ實際ノ外交政策ノ立案及實行ニ其ノ儘發揮シ以テ力

強キ昭和維新ノ外交ヲ行ヒ度キコトナリキ。

然ルニ同問題ノ結末ヲ見ルニ、最モ責任ヲ執ル可キ主腦部ハ政局安定ノ名ニ壓セラレテ其ノ現職ニ止マリ恬然タルノミカ、其ノ後内閣ノ工夫セル所謂「誠告」テフ形式の議會對策ヲ甘受シ、剩ヘ引續キ不明朗且不合理ナル人事ヲ遂行シ爲ニ事務當局ノ主腦部ニ對スル不信、不滿ハ化シテ敗北的隱遁ニ非スンハ反動的抗爭トナリテ現レ、全省ノ協力體勢ハ漸ク崩壞ノ狀トナルニ至レリ。

(ハ) 日米間暫定協定締結提議ト揚子江開放問題

十二月初旬外務省主腦部ハ日米間無條約狀態ノ出來ヲ極度ニ恐怖シ通商條約失效後ニ於テ兩國間ニ暫定協定ヲ有スルコトヲ國交上無上ノ要件ト認メ之カ締結ノ代償トシテ南京下流ノ揚子江ヲ開放スルコトニ決定シタルカ右ハ全ク事務當局ト無連絡ニ焦慮唐突ノ間ニ決定セラレタルモノナリ。事務當局ニ於テハ豫ネテヨリ無條約狀態ニ立到リテモ米國側ニ於テハ通商條約廢棄ノ政治的動機ニ鑑ミ平常ノ通商ノ妨害トナルヘキ日本船ノ載貨ニ對スル從價一割稅及日本船ニ對スル噸稅竝ニ

燈臺稅ハ日本側ニ於テ特別ノ「ヂエスチュア」ヲ爲サストモ之ヲ賦課スルノ意無キコトヲ確信シ、關係方面ノ不安除去ノ爲此ノ點ニ關スル話合ヲ米國側ト爲ス可キ様華府ニ訓令センコトヲ主張シ居リタルモ右ハ谷次官ノ容ルル所トナラスシテ其ノ儘トナリ居リタルカ、十二月二入リテハ右見透シノ正當性ヲ裏書キスル確實ナル情報ハ漸次桑港、華府及紐育等ヨリ續々齎サルルニ至レリ。一方事務當局ニ於テハ假令揚子江ノ開放ヲナストモ米國側ハ暫定協定ノ締結ニ應シ來ラサルハ勿論之ヲ以テ日本ノ對米屈服ト認メ益々ソノ對日要求ヲ重加シ來ルヘシト觀察シ當時對英外交ノ有力武器タリシ揚子江問題ヲ對米考慮ノ爲ノミニ使用スルノ有害無益ナルコトヲ力說シ、更ニ支那ヲ半殖民地ノ地位ニ置ク内河航行權問題解決ニ何等資セサルカ如キ開放ノ方法ヲ執ルコトハ東亞新秩序ノ理想達成ニ矛盾ス可キコトヲ聲ヲ大ニシテ唱ヘ來レリ。然ルニ外務省首腦部ニ於テハ「クリスマス」前ニ何等カノ對米「アピースメント」ヲ爲ササレハ米國ハ今年米國議會劈頭ノ大統領敎書ニ於テ或ヒハ對日壓迫政策宣明ノ舉ニ出テ來ル可

シトノ妄想ニ虜ハレ、且米國側ハ長江開放ニ應シテ必スヤ少ク共暫定協定締結交渉ニ應シ來ルヘシトノ誤レル期待ノ下ニ今次ノ措置ニ出テタル次第ナリ。其ノ米國ノ政治的動向乃至客觀的狀勢判斷ノ甚タ誤ナリシコトハ兩三日ヲ出テスシテ明瞭トナリ米國ハ支那ノ事態カ米國ノ希望スルカ如ク改訂セラレサレハ條約問題ヲ議スルノ意ナキコトヲ通告シ來リタリ。之ニ對シ自ラノ錯誤ヲ掩ハンカ爲ニ主腦部ハ恰モ米國カ我方ノ期待通りニ長江開放ニ對シ「レシプロケイト」シ來リ無條約狀態モ回避シ得ラルルカ如ク宣傳シ國民ヲ僞瞞セルモ、其ノ後米國ハ對日道義的禁輸ヲ擴大シ、海軍軍備擴張ヲ策シ、我方被害案件處置振りニ難僻ヲ付ケ來ル等、其ノ對日態度ハ我方ノ長江開放ニ「レシプロケイト」シ來ルドコロカ益々其ノ侮日的態度ヲ強化シ來リ、主腦部ノ不明ハ正ニ掩フ可クモナシ。若シ今後モ現主腦部カ對米政策ヲ續行スルニ於テハ聖戰ノ目的完遂ハ期ス可クモ無ク支那ノ山野ヲ染メタル我カ同胞ノ尊キ血潮モ嗚呼何等意義無キ喪失ニ終ル可シ。

三、我等ハ前記ノ如キ外務省内ノ實情殊ニ對米外交ノ現狀ニ

付憂憤ヲ禁シ能ハス之カ打開ノ爲當面執ルヘキ政策トシテ左記諸點ノ實行ヲ建言スルモノナリ。

(イ) 米國側カ今後對日壓迫ヲ重加シ來ルコトハ明カナルヲ以テ米國極東政策ノ眞髓ニ付明確ナル認識ヲ堅持シ東亞新秩序建設ノ理想完遂ノ爲我カ不退轉ノ決意ヲ更ニ強化シ若シ米國ニシテ右理想實現ニ對シ不斷ノ妨害ヲ加フルニ於テハ之一戰ヲ辭セサルノ腹構ヲ以テ海軍軍備ノ充實ニ努ムルコト。

(ロ) 外務省内主腦部以下對米外交人事ノ刷新ヲ行フコト。

(ハ) 一月二十六日日米間無條約狀態ニ入ルニ當リ駐米大使ヲシテ米國側ノ廢棄通告公文ニ對スル回答ヲ發シ「日本ハ米國ノ突然、且非友誼的ナル通商條約ノ廢棄通告ノ結果日米關係カ異常ナル不安狀態ニ入リタルニ鑑ミ、コノ現狀打開ノ責任ハ當然米國側ニ在リト考ヘ、其ノ爲ニ米國側カ何等カノ措置ニ出ツ可キヲ期待シ、又我方トシテモ之ヲ「エンカレッジ」スルカ如キ建設的協調的努力ヲ拂ヒ來レルニモ拘ラス、米國側ニテハ何等建設的態度ニ出テ來ラス、遂ニ日米間ニ無條約狀態ヲ顯現セシメタルハ遺憾ニシテ、今後日米關係惡化スル

コトアラハ米國側ハ之ニ對シ多大ノ責任ヲ負ハサルヘカラス」トノ趣旨ヲ通告セシメ、同時ニ駐米大使ニ歸朝ヲ命スルコト。

(二) 日米間無條約狀態ニ入ルトモ通商上其ノ他何等特別ノ不便無キ筈ナルニ付、通商條約問題ハ一應コノ儘トナシ(日本側ニ於テ米國側ニ對シ無條約狀態ヲ恐ルルカ如キ印象ヲ與フルコトハ絕對不可ナルト共ニ此上我方ヨリ進ンテ條約ヲ欲スル如キ氣配ヲ示スコトハ極メテ不見識ナリ)對米外交ノ焦點ヲ新支那中央政權成立ヲ繞ル日米外交戰ニ轉ス可キコト。而シテ米國側ハ汪政權ヲ日本ノ傀儡政府ト見做シソノ成立ノ前後ニ於テ或ハ直接ニハ武力ニ依ル事態ノ變更不承認主義ノ主張又ハ道義的禁輸ノ累加ニヨリ間接ニハ借款供與ソノ他ニヨル援蔣行爲ニヨリ我方ノ中央政權樹立竝ニソノ強化ノ努力破壞措置ニ出テ來ル可キコト容易ニ豫測セラルル所ナルヲ以テ、右ニ對シテハ日本ハ日本側ト汪側トノ協定内容ヲ基礎ニ日本ノ之以上後退シ得サル線ヲ明確ニシタル上、米國ニ對シ帝國ノ決意不動ナレハ米國ニシテ若シ右最後線以上ニ日本ヲ後退セシメントスル

ニ於テハ日米正面衝突ノ不幸事態ニ立到ル可キコトヲ認識セシメ同時ニ九國條約ノ取扱方ニ關シ從來ノ消極的回避態度ヲ棄テソノ廢棄ノ爲執ルヘキ具體的措置ニ關シ用意ヲ整フルコト。

(ホ) 右ノ如キ對米施策上日本ノ蘇獨伊諸國トノ關係ヲ有效適切ニ利用スルコト。

(ハ) 帝國議會ニ對シ對米政策ヲ特ニ明確詳細ニ説明シ其レヲ端緒ニ新對米交渉ニ入ル可キコト。有田外交カ野村外交ノ繼續ナリトノ印象ヲ米國側カ抱ク限り米國ハ現在ノ毎日の追撃的態度ヲ反省セサル可シ。

(ト) 日米懸案解決ハ總花主義ヲ廢シ、政治的意義多キモノ(主トシテ支那ノ不平等地位ニ關スルモノ)ハ此ノ際手ヲツケス、事務的處理又ハ日本商人ノ不當進出ノ抑制ニ依リテ解決シ得ル範疇ノモノニ付テハ道義的自主精神ニ基キ英斷的ナル處置ヲナスコト。政治的考慮及ヒ準備工作無シニ單ニ相手方ノ要求アレハトテ小出シニ總花式懸案解決ヲ計ルコトハ國內的摩擦ノミ多クシテ對外的效果少シ。

(チ) 帝國議會ヲ通シ日本國民ニ日米關係ノ現狀竝米國ノ動



向ニ付正確ナル認識ヲ持タシムルト共ニ外務省外廓團  
体ノ動員、新聞紙其ノ他ノ利用講演會ノ開催等ニヨリ  
國民總体ヲシテ帝國ノ對米外交ヲ支援セシムルカ如キ  
態勢ヲ整フルコト。

(リ)對米宣傳方針及機構ヲ擴充強化スルコト。

以  
上